

鶴岡市の福祉ニーズに関する調査報告書

2025年3月

鶴岡市

はじめに

本市では、「誰一人取り残さない」という SDG s の理念を踏まえ、「安心すこやか 福祉で共生のまちづくり 鶴岡」を基本理念に、地域における支え合い活動を推進し、地域福祉の向上に取り組んでいるところです。

そこで、市民の皆さまに、日頃の暮らしの困りごとや地域の課題について、また地域の支え合い状況についてお伺いし、今後の鶴岡市の地域福祉の向上のために活用させて頂くために、「**鶴岡市の福祉ニーズに関するアンケート調査**」を 2024 年 8 月から 2024 年 9 月にかけて実施致しました。

本報告書は、市民の皆様から得られました回答を集計・分析した結果をまとめたものであります。長期に渡るコロナ禍を経て、最近の国内外の社会的・経済的環境が市民の暮らしや福祉ニーズにどのような影響を与えているのか、また、少子高齢化が進む中、地域の課題や地域福祉に関する施策などについて市民の皆様がどのように捉えているのかなどについて、多くの参考となるデータが得られたものと考えます。

この調査結果を広く関係機関・団体などと共有するとともに、これらの結果を踏まえ、令和 7 年度において改訂を行なう市の「つるおか地域福祉プラン」、市社会福祉協議会の地域福祉活動計画「おだがいさまプラン」の内容に反映させていきたいと考えております。

最後に、本調査にご協力いただいた皆様に心から感謝申し上げますとともに、本市の地域福祉の推進に、一層の御理解・ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

目次

I 調査の概要	・ ・ ・ ・ p 1
II 調査結果のポイント	・ ・ ・ ・ p 3
III 調査結果	
1. 回答者の基本属性等	・ ・ ・ ・ p 5
2. 健康状態と社会的孤立の状況について	・ ・ ・ ・ p 12
3. 社会参加の状況について	・ ・ ・ ・ p 17
4. 暮らしの困りごとについて	・ ・ ・ ・ p 20
5. 地域の課題について	・ ・ ・ ・ p 30
6. 地域の支えあいについて	・ ・ ・ ・ p 42
7. 地域福祉の施策について	・ ・ ・ ・ p 55
参考資料	・ ・ ・ ・ p 61
・ 鶴岡市の福祉ニーズに関するアンケート調査調査票	

I 調査の概要

- ① 調査期間：2024 年 8 月 28 日～2024 年 9 月 13 日
- ② 調査対象：18 歳以上の鶴岡市民 年代と居住地域による層化 2 段抽出法による 2,000 人
- ③ 目的： 日頃の暮らしの困りごとや地域の課題について、また地域の支え合い状況についてうかがい、今後の鶴岡市の地域福祉の向上のために活用するため。
- ④ 調査方法：郵送によって調査用紙を送付、回答は、郵送と QR コードによる。
- ⑤ 有効回答数：737 (36.9%)
- ⑥ 主な質問項目
 - A 基本属性
(性別、年代、居住地域 (18 地域)、婚姻状況、世帯状況、就労状況)、経済、福祉サービスの利用状況、健康状態、孤独感・孤立感、社会参加の状況
 - B 暮らしの困りごとや地域の課題について
暮らしの上で困っていること、困っている時頼れる人、地域の課題について
 - C 地域の支えあいについて
地域の支え合いの状況
 - D 地域福祉の施策について
福祉施策について、災害時避難行動要支援者対策について
- ⑦ 集計・分析 特定非営利活動法人 日本地域福祉研究所

Ⅱ 調査結果のポイント

（属性）

- 回答者の年代は、各年代は分散しており、10～20 才代、30・40 才代の回答が合わせて 43.4%となっており、若い世代の回答を得ることができている。
- 居住する地域を市内 18 地域に区分し、各地域の回答数は分散しており平均 41 名となっている。
- 世帯状況は、「2 世代（両親と子ども）が 36.5%、続いて「3 世代世帯（親と子どもと孫）」が 23.7%となっている。「夫婦のみ世帯（1 世代世帯）が、17.2%、「単身世帯」が 9.8%となっている。
- 経済的な状況は、「あまり余裕がない」が 51.4%、「非常に苦しい」が 13.0%と合わせて、64.4%とかなり高い比率を示している。
- 現在の住まいは、「持ち家（一戸建）」が 87.2%とほとんどを占めている。

（福祉サービスの利用状況）

- 「福祉サービスを利用している」と回答した人は 27.7%であり、その内容としては、介護保険サービスが 75.5%と約 4 分の 3 となっている。

（健康状態）

- 身体的に健康でない（「あまり」と「健康でない」の計）と回答した人は、30.0%となっている。
- 精神的に健康でない（「あまり」と「健康でない」の計）と回答した人は、26.6%となっている。

（孤独感・孤立感）

- 主観的な孤独感を有する人は、「時々ある」が 9.2%、「しばしばある・常にある」が 4.7%であり、内閣府の全国調査(2023 年)では、4.8%であり、ほぼ同程度となっている。
- UCLA 孤独感尺度によると、

（社会参加の状況）

- 社会参加については、「1 年以上前から参加している」のは、自治会や町内会が 40.3%、職場内の会やグループが 20.8%、趣味の会やグループが 19.7%の順である。その一方、「参加していないが、機会があれば参加したい」は、

趣味の会やスポーツクラブが 23.7%、ボランティアや NPO が 21.0%、地域のサロンや居場所が 19.8%と比較的高い比率を示している。

（最近の暮らしで困っていること）

- 「大変困っている」、「ある程度困っている」を合わせた比率は、「物価の高騰や経済的なこと」が 79.1%と、他と比較して最も高くなっている。続いて「介護にすること」が 30.1%、「住まいにすること」が 29.6%、「子育てにすること」が 28.1%となっている。「家族関係にすること」は 10.4%であり必ずしも低くない比率を示している。

（困っている時に頼れる人の有無、頼れる人）

- 「通院や買い物の世話をしてくれる人がいない」と回答した人は、10.3%、「家庭や仕事のこと等で精神的に苦しいときに頼れる人がいない」が 9.4%、「重要な事柄の相談で頼れる人がいない」が 8.5%、「病院や福祉施設に入所・入院する際に身元保証人として頼れる人がいない」が 7.3%となっている。

（住んでいる地域の課題）

- 住んでいる地域の課題として、「かなりあてはまる」、「ある程度あてはまる」と回答した比率が高いのは、「少子化や人口が減っていくことが心配である」が合わせて 74.1%、「災害があった場合に心配である」が 64.1%、「町内会や自治会の役員が高齢化し、担い手が不足している」が 62.7%の順となっている。地域別のデータからは、地域の地理的条件や利便性、人口減少や高齢化の進展状況などによって地域の課題についての認識に違いが示されている。

（近所づきあいについて）

- 普段の近所づきあいについては、「合えばあいさつする程度」が 27.5%と最も高く、次いで「助け合うまでとはいかないが、親しく話している人がいる」が 25.0%、「困った時に助け合える人がいる」が 20.5%となっている。一方、「つきあいはほとんどない」が 6.0%となっている。

（地域活動・ボランティア活動について）

- 地域活動・ボランティア活動に現在参加している人は、24.0%と約 4 分の 1 となっている。「過去には参加していたが、現在は参加していない」が 15.3%「参加していない」が 57.9%となっている。

（地域活動・ボランティア活動に関する情報の入手について）

- 地域活動・ボランティア活動に関する情報入手について、「十分に入手できている」が 10.4%にとどまり、「十分ではないが入手できている」が 43.3%、「ほとんど入手できていない」が 29.6%となっている。

(住民同士のささえあい、ボランティア活動について)

- 住民同士のささえあい、たすけあいの必要性について「とても必要だと思う」が 17.2%、「必要だと思う」が 51.6%となっている。
- 住民同士のささえあい、ボランティア活動に特に必要なことは、「ともに活動する仲間や友人がいること」が 47.6%、続いて「家の近くでできること」が 37.6%、「地域の人が気軽に集まれる場所を作ること」が 30.7%となっている。
- 上記でできることは、「日常での安否確認や声かけ」が 48.4%、続いて「災害時避難の手助け」が 39.8%となっている。
- 上記で地域の人に頼みたいことは、「災害時避難の手助け」が 31.1%、続いて「日常での安否確認や声かけ」が 21.6%、「具合がよくない時に、病院や救急などへの連絡」が 17.8%となっている。
- 地域活動・ボランティア活動への参加意思是、「できるだけ取り組んでいきたい」が 8.5%、「機会があれば取りくんでもよい」が 41.9%となっている。

(福祉サービスや制度についての情報の入手について)

- 福祉サービス制度についての情報の入手について、「十分に入手できている」が 5.8%、「十分ではないが入手できている」が 40.3%となっている。

(困り事が生じた場合の相談)

- 福祉や介護に関する相談窓口に相談できるかについて、「必要であればすぐに相談できる」が 30.7%、「情報があれば相談できる」が 42.9%、「情報があってもなかなか相談できない」が 14.1%となっている。

(福祉施策の重要度について)

- 「かなり重要である」の比率が高いのは、「福祉や介護の人材の確保や養成」が 42.7%、「福祉サービス・福祉制度に関する情報提供の充実」が 39.2%、続いて「身寄りがない人の身元保証や死後の対応」が 36.8%となっている。

(災害時避難行動要支援者対策についての行政への期待)

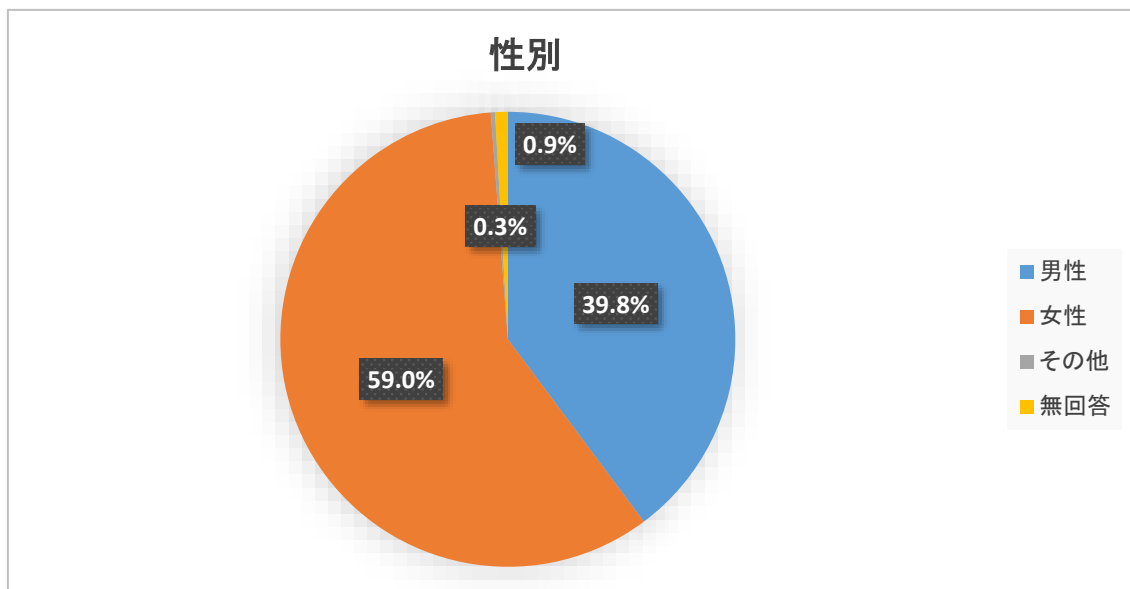
- 「避難所での必要な配慮」が 44.9%、続いて「地域での協力体制づくりの支援」が 36.8%、「避難行動要支援者の世帯情報を活用し、緊急時の対応活動を行う」が 28.9%となっている。

Ⅲ 調査結果

1. 回答者の基本属性等

〔性別〕

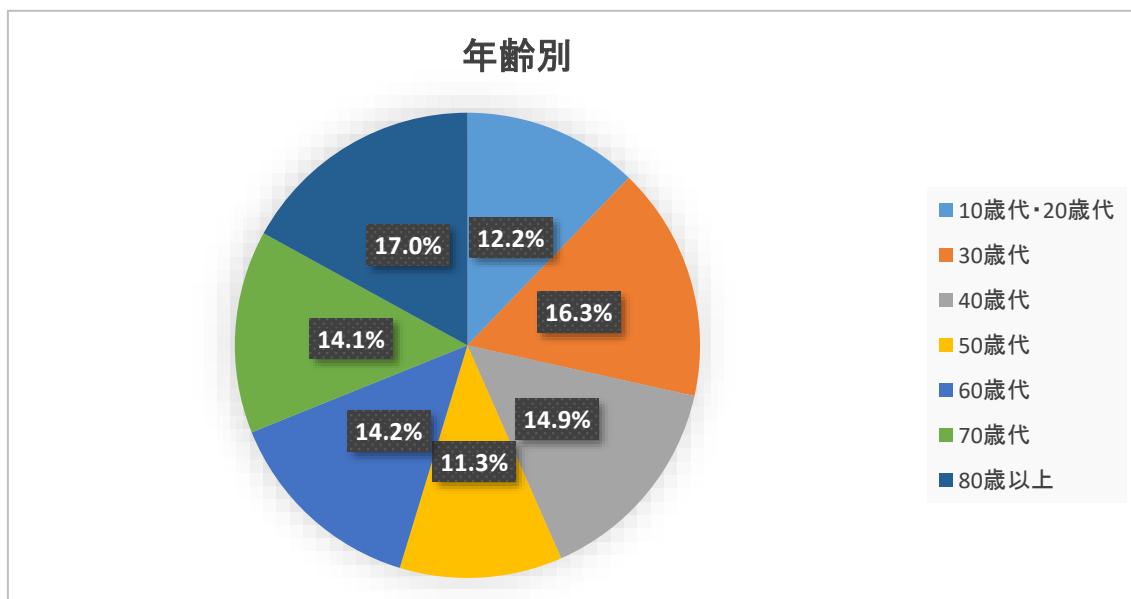
問1 あなたの性別をお伺いします。



回答者の性別は、「男性」39.8%、「女性」が59.0%と女性の方が約20ポイント多く、また、「その他」が0.3%、「無回答」が0.9%となっている。

〔年齢〕

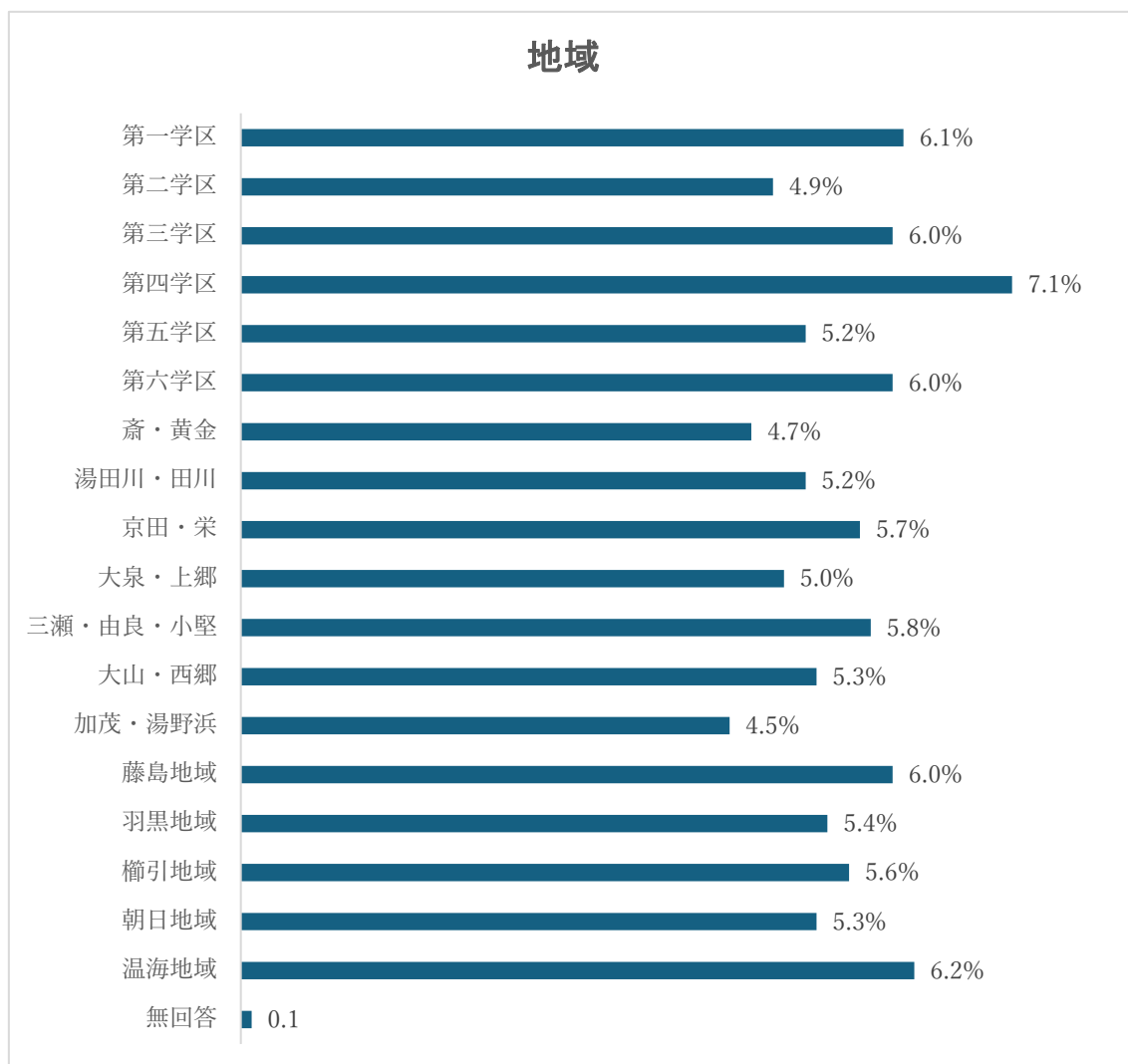
問2 令和6年8月1日現在のあなたの年齢を伺います。



年代別では、「10歳代・20歳代」から「80歳以上」の年代まで7つの区分となっているが、各年代とも10%以上の回答を得ている。今回の調査は、郵送による返送だけでなく、QRコードを用いた回答も活用したことによって、比較的若い年代層からの回答を得ることができている。その結果、従来になく幅広い年代層の回答が反映された結果となっている。

〔居住する地域〕

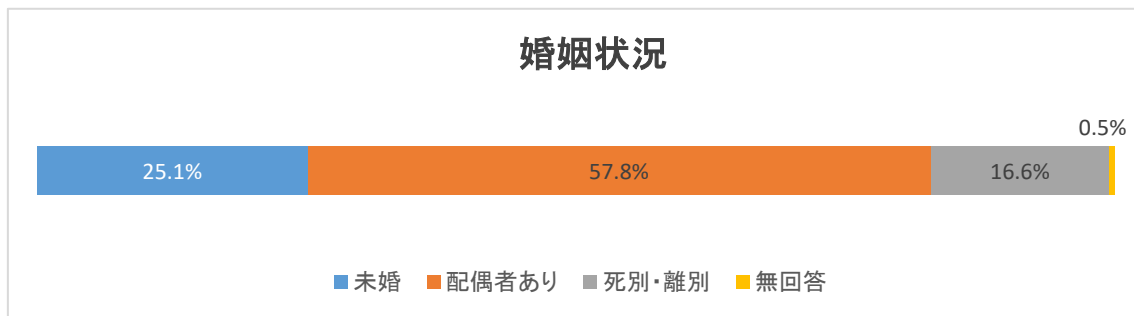
問3 お住まいの地域はどちらですか。



回答者の居住する地域は、上記の図のように 18 地域となっており、各地域の回答数は、分散する結果となっている。また、地域別の回答数は平均 41 名と多くなく、地域別による各項目の有意差を表わすには回答数が少なく、地域別の分析は、あくまでも参考程度にすることとする。

〔婚姻状況〕

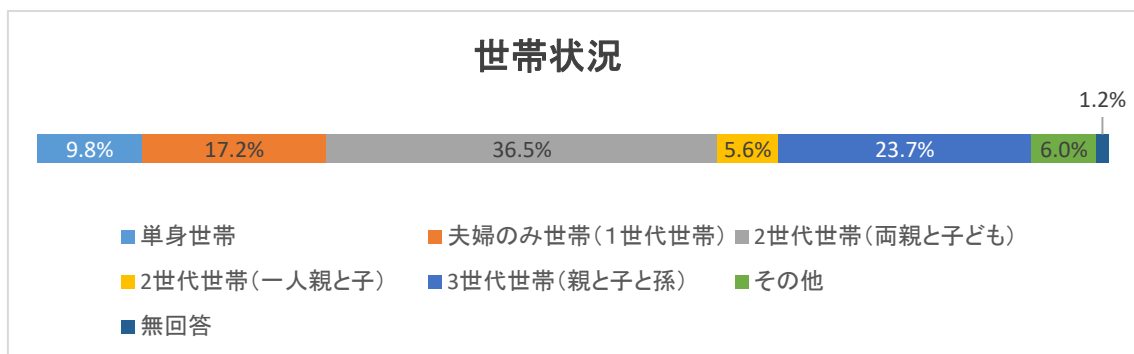
問4 あなたの現在の婚姻状況をお答えください。なお「配偶者」には事実上夫婦として生活しているが、婚姻届を提出していない場合を含めます。



回答者の婚姻状況については、「配偶者あり」が 57.8%と約 6 割となっており、「未婚」が 25.1%と回答者の約 4 分の 1 であり、「死別・離別」が 16.6%となっている。

〔世帯状況〕

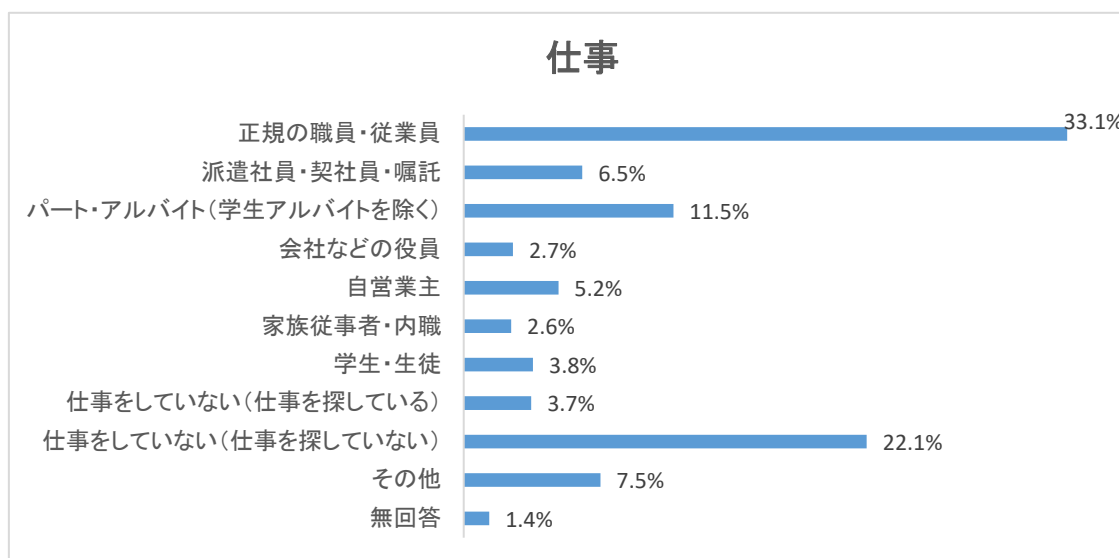
問 5 あなたの世帯は、どのような世帯ですか。



回答者の世帯状況は、「2 世代世帯（両親と子ども）」が 36.5%と最も多く、3 分の 1 を超えている。続いて、3 世代世帯（親と子と孫）が 23.7%と約 4 分の 1 となっている。全国的には、3 世代世帯は、 %（ 年 月現在）となっており、鶴岡市は、全国平均と比較して 3 世代世帯が多いことが特徴としてあげられる。また、夫婦のみ世帯（2 世代世帯）が、17.2%であり、大半は、高齢者のみ夫婦と考えられ、高齢化の進展を反映していると言えよう。また、「単身世帯」は、9.8%となっている。

〔仕事の状況〕

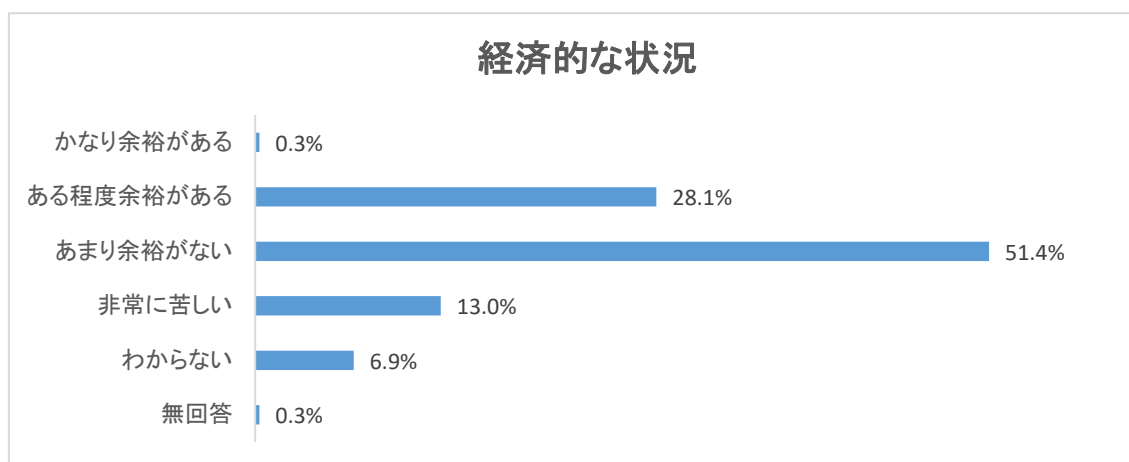
問6 あなたの現在の仕事をお答えください。



回答者の仕事の状況については、「正規の職員・従業員」が最も多く 33.1%と3分の1程度となっている。続いて、「仕事をしていない(仕事を探していない)」が 22.1%と約5分の1程度となっている。次に、「パート・アルバイト(学生アルバイトを除く)」が 11.3%、「その他」が 7.5%、「派遣社員、契約社員・嘱託」が 6.5%となっている。さらに、「自営業主」は、5.2%、「仕事をしていない(仕事を探している)」が 3.7%となっている。

〔経済的な状況〕

問7 あなたの世帯の現在の経済的な状況はいかがですか。

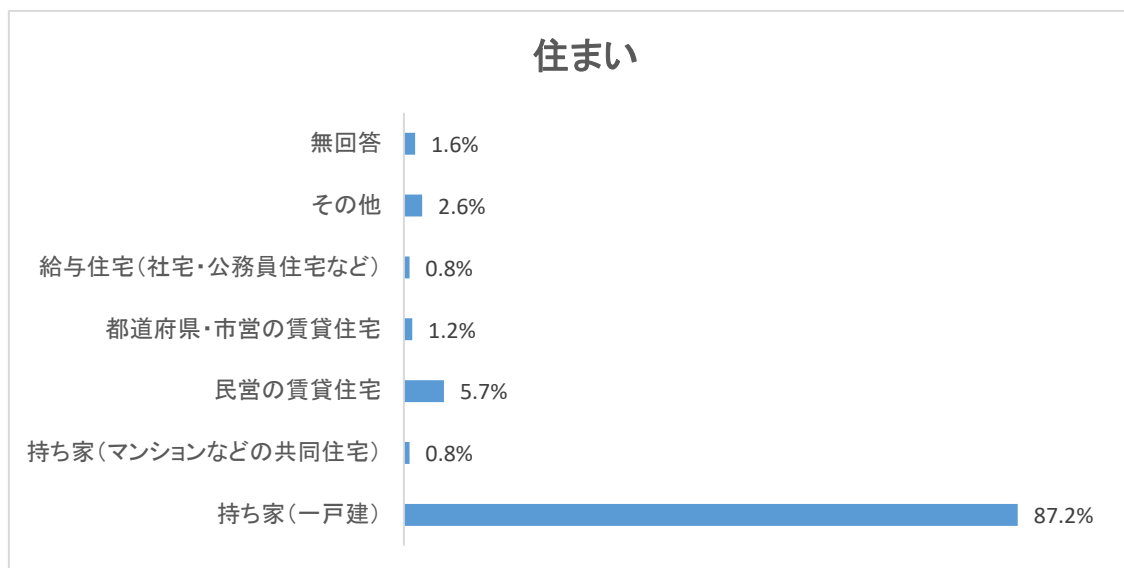


回答者の世帯の現在の経済的な状況について、「あまり余裕がない」が 51.4%

と半数を超えている。また、「非常に苦しい」が13.0%となっており、最近のインフレなどの影響もあり、経済的に余裕がない世帯、また厳しい状況にある世帯が多いことを示している。一方、「ある程度余裕がある」は28.1%となっており、「かなり余裕がある」は0.3%と非常に少なくなっている。

〔住まいについて〕

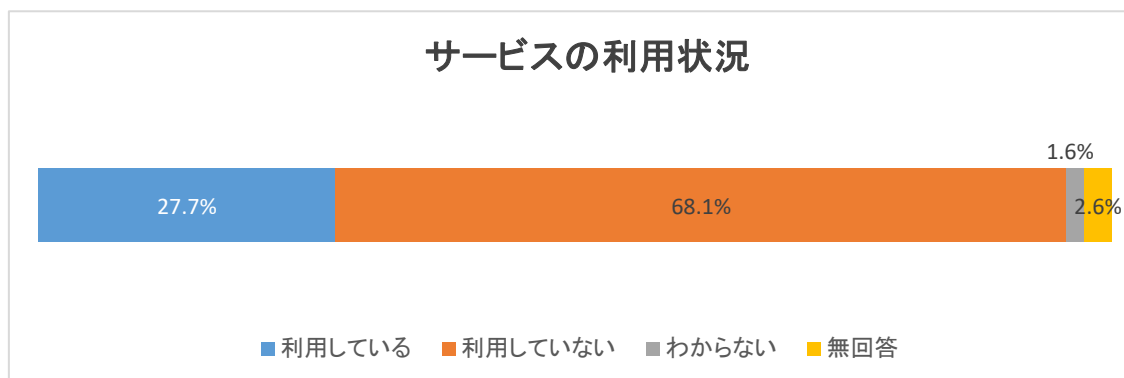
問8 あなたの現在の住まいをお答えください。



回答者の住まいについては、「持ち家（一戸建）」が87.2%と9割近くとなっている。「民営の賃貸住宅」は、5.7%となっている。そして、その他の住まいは、低い比率となっている。

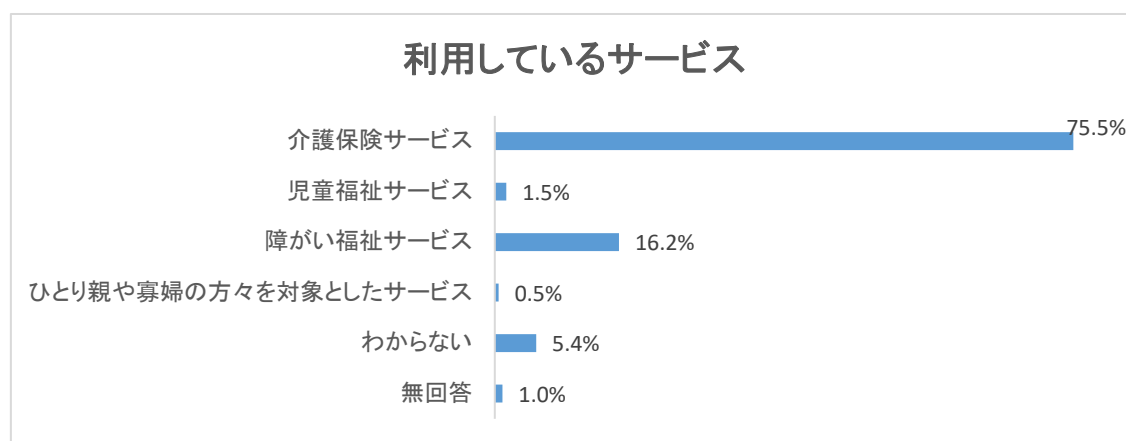
〔サービスの利用状況〕

問9-1 あなたやあなたの家族（同居していない場合も含む）は、現在福祉・介護サービスを利用していますか。



回答者自身や家族（同居していない場合も含む）の現在の福祉・介護サービスの利用状況について、「利用している」は、27.7%となっている。質問は、同居していない家族も含んでいることから、30%近い利用率を示しており、福祉や介護サービスが、市民にとってかなり身近なものになっていると考えられる。一方、「利用していない」は、68.1%となっている。現在、福祉・介護サービスを利用していない住民が、サービスが必要になった場合、可能な限り早期に、また適切に相談できるサービスや相談に関する情報提供のあり方が問われていると言えよう。

問 9-2 福祉・介護サービスを利用している場合は、どのサービスを利用していますか。

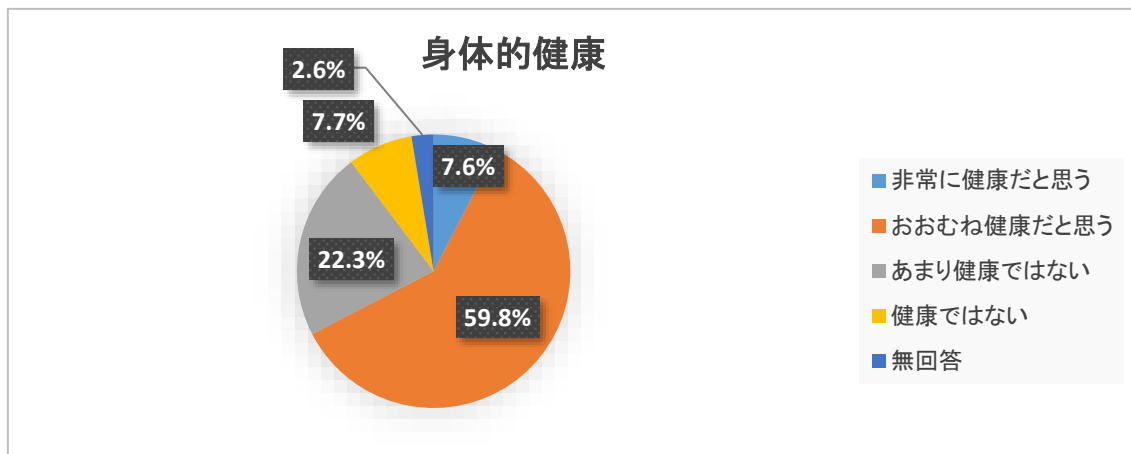


問 9-1 で、福祉・介護サービスを「利用している」回答した人に対して、どのサービスを利用しているかとの問いに対して、「介護保険サービス」が 75.5%と約 4 分の 3 と高い比率を示している。続いて、「障がい福祉サービス」が 16.2%、「児童福祉サービス」が、1.5%、「ひとり親や寡婦の方々を対象としたサービス」が 0.5%となっている。

2. 健康状態と社会的孤立の状況について

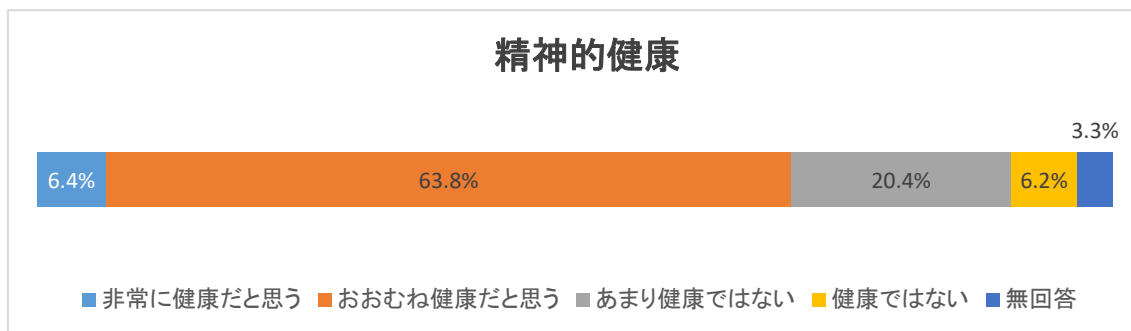
〔健康状態について〕

問 10 あなたは、ふだん自分で身体的に健康だと思いますか。



回答者の主観的な身体的健康観については、「おおむね健康だと思う」が最も多く、59.8%と6割近くとなっている。続いて、「あまり健康でない」が22.3%と5分の1を超えている。また、「健康でない」と回答した方が7.7%であり、合わせて30%となっており、10人に3人が健康上の課題を抱えていることを示している。一方、「非常に健康だと思う」は、7.6%となっている。

問 11 あなたは、ふだん自分で精神的に健康だと思いますか。



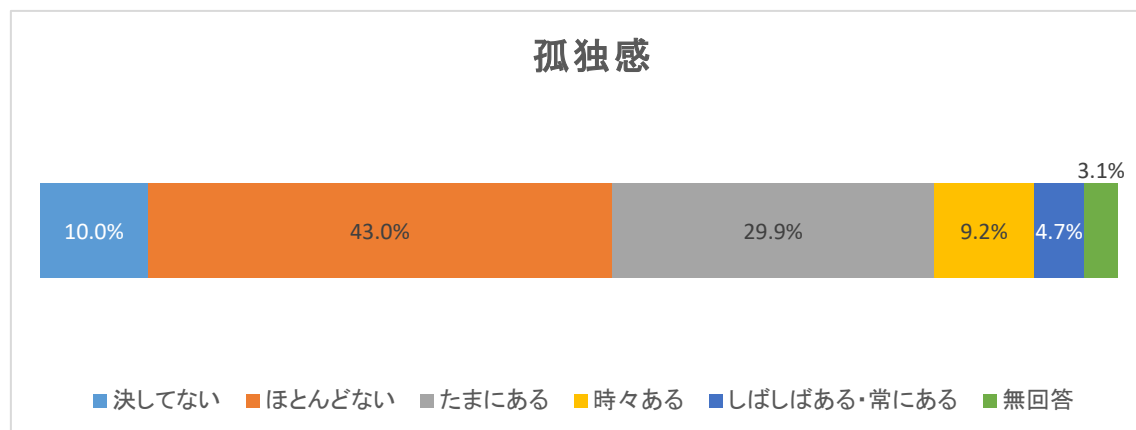
回答者の主観的な精神的健康感には、「おおむね健康だと思う」が63.8%となっている。「非常に健康だと思う」が6.4%と合わせて7割を超えている。その一方、「あまり健康でない」が20.4%と2割を超えており、「健康でない」も6.2%となっている。

長期に渡るコロナ禍や国内外の社会環境の変化も激しく、精神的に過度なストレスを抱えている人も多くいることを示しており、地域においてメンタルへ

ルスに関する取り組みを広げる必要があると言えよう。日本人は、悩みごとや心の健康に関する問題を自身で抱え込む傾向があると言われている。地域の中で心の悩みを語り合う場や機会を設けるなど、一人一人がメンタルヘルス・リテラシーを高める工夫が求められる。

〔孤独感について〕

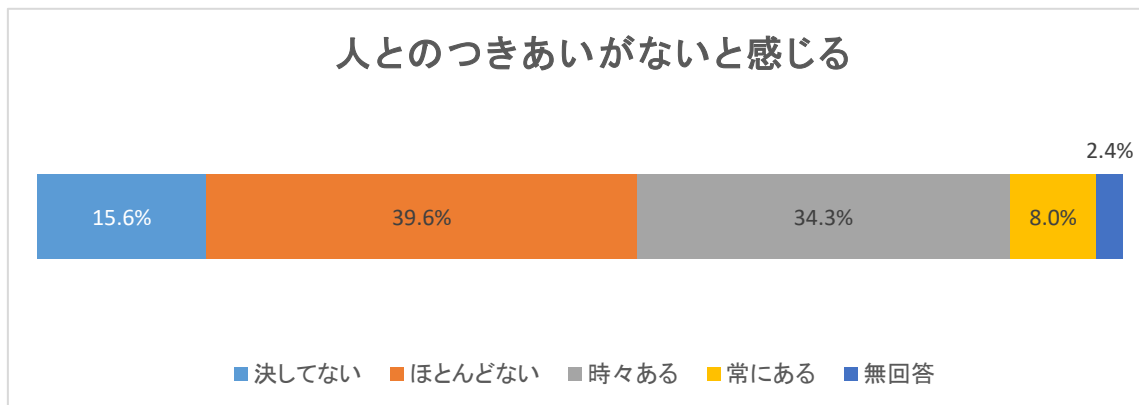
問 12-1 あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。



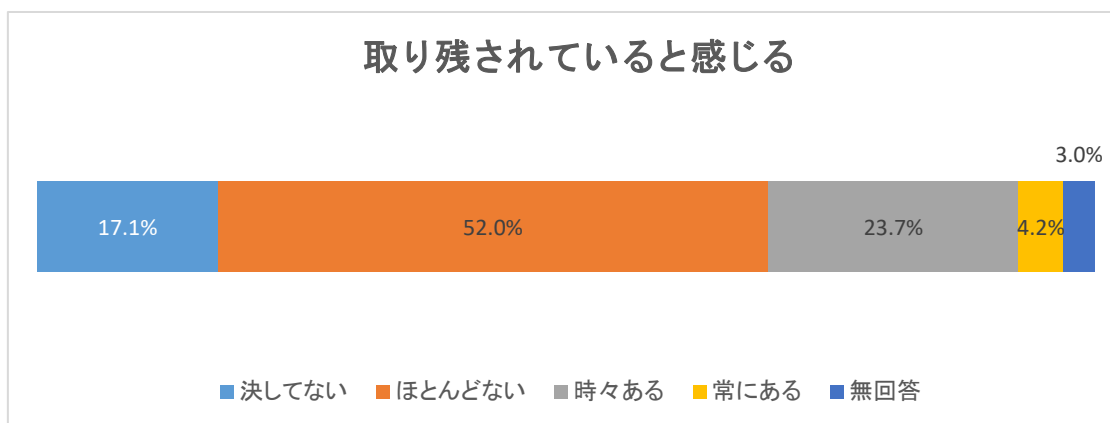
回答者の孤独感（あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか）との問いへの回答は、「ほとんどない」が 43.0%と最も多くなっている。また、「たまにある」が 29.9%と約 3 割となっている。その一方、「時々ある」が 9.2%、「しばしばある・常にある」が 4.7%となっており、合わせて 13.9%と約 7 人に 1 人が孤独感を感じたことがあり、必ずしも低い比率と言えない状況を示している。一方、「決してない」は、10.0%となっている。

内閣官房孤独・孤立対策室が、令和 5 年度に実施した「人々のつながりに関する基礎調査」では、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は 4.8%となっており、本調査結果とほぼ同じ比率となっている。また、「時々ある」は、14.8%と全国調査の方が 5 ポイント以上高くなっている。さらに全国調査では、「たまにある」が 19.7%となっており、本調査の結果が 10%以上高くなっている。孤独感が「ほとんどない」と回答した人の割合は 41.4%であり、本調査の結果が若干高くなっている。さらに、「決してない」が 17.9%となっており、本調査では、10.0%と 8 ポイント近く低くなっている。

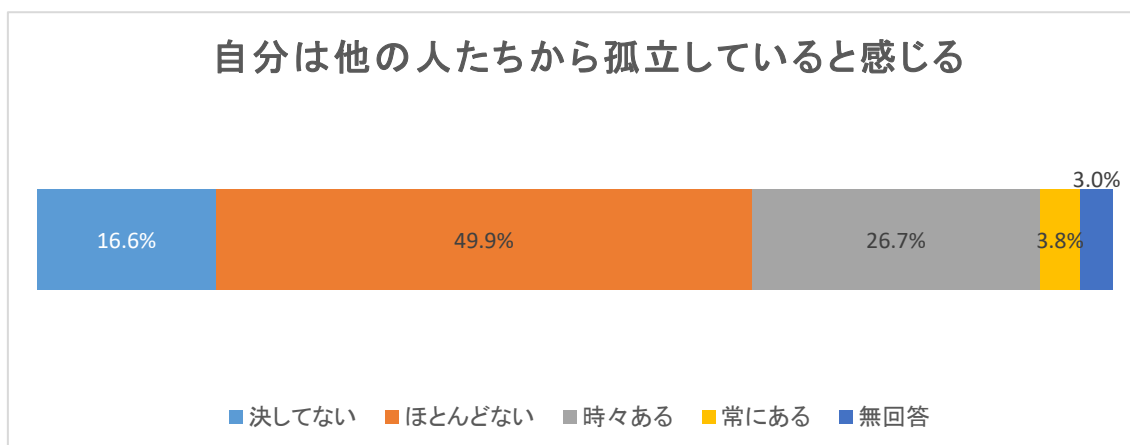
問 12-2 あなたは、自分には人とのつきあいがないと感じることがありますか。



問 12-3 あなたは、自分は取り残されていると感じることがありますか。



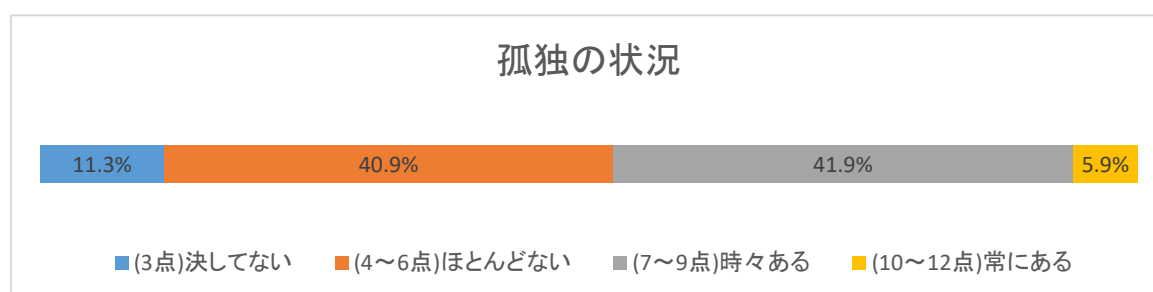
問 12-4 あなたは、自分は他の人たちから孤立していると感じることがありますか。



上記の問いは、カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）のラッセルが、孤

独という 主観的な感情を間接的な質問により数値的に測定するために考案した「UCLA 孤独感尺度」である日本語版の 3 項目短縮版に基づくものである。そして、上記の 3 つの設問への回答をスコア化し、その合計スコアが高いほど孤独感が高いと評価する内容となっている（設問に「孤独」という言葉を使用せずに孤独感を把握することから、この調査ではこれを間接質問と呼んでいる）。

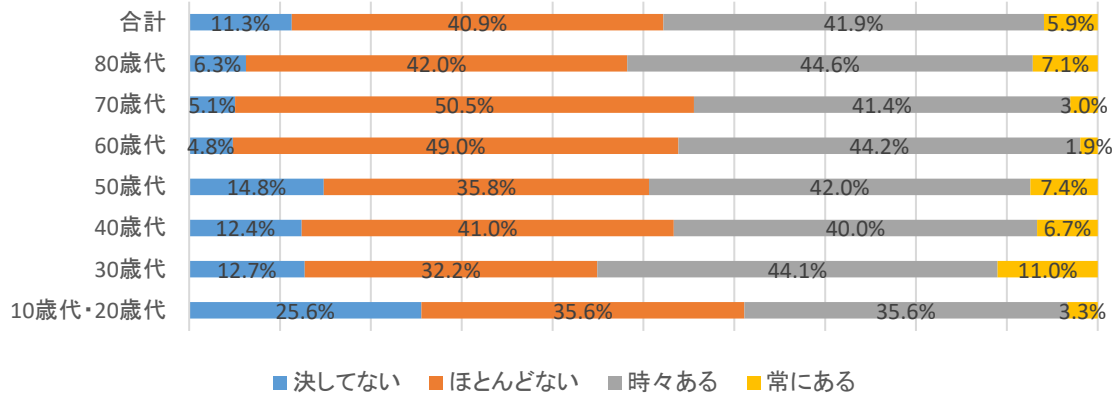
今回の調査結果の取りまとめに当たっては、3 つの設問それぞれへの回答について、「決してない」を 1 点、「ほとんどない」を 2 点、「時々ある」を 3 点、「常にある」を 4 点としてスコア化し、その合計スコアについて、便宜的に「10～12 点」（常にある）、「7～9 点」（時々ある）、「4～6 点」（ほとんどない）、「3 点」（決してない）の 4 区分に整理した。



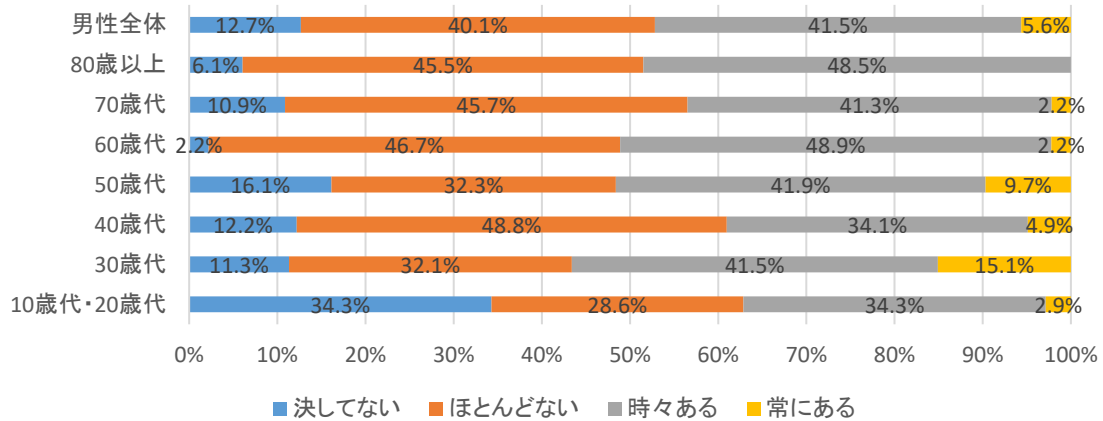
回答者の内、「10～12 点（常にある）」人の比率は、5.9%、「7～9 点（ときどきある）」が 41.9%、「4～6 点（ほとんどない）」が 40.9%、「3 点（ほとんどない（3 点））」が 11.3%となっている。

内閣府による全国調査では、「10～12 点（常にある）」人の比率は、6.9%、「7～9 点」（ときどきある）が 40.1%、「4～6 点（ほとんどない）」が 38.5%、「3 点（決してない）」が 13.7%となっており、「常にある」の比率は鶴岡市の方が 1 ポイント低く、「時々ある」が逆に 1 ポイント高くなっており、全国調査の結果とほぼ同程度となっている。また、「ほとんどない」は、鶴岡市が 2.4%高く「決してない」は、2.4%低くなっており、ほぼ全国と同様の傾向を示していると言えよう。

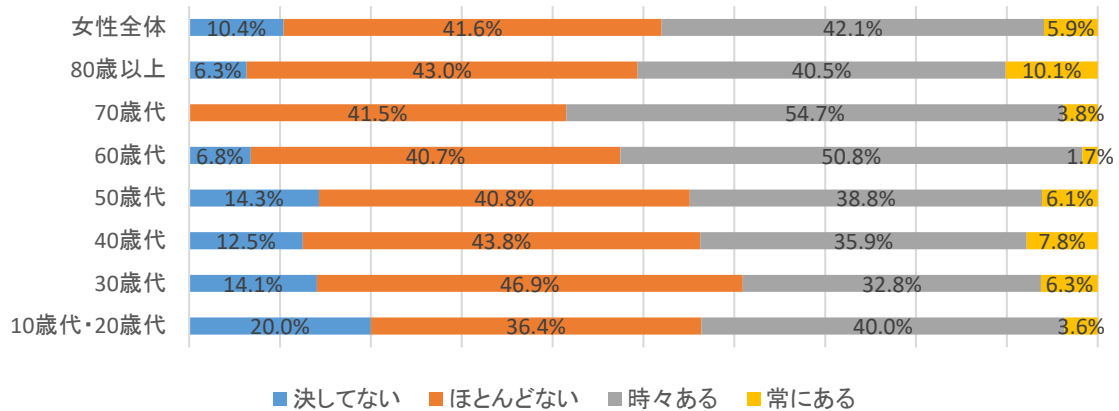
年代別の孤独感



男性・年代別孤独感



女性・年代別孤独感



上記の図は、孤独感について、年代別、さらに男女の年代別の比率を示したものである。

これによると、30 歳代が「常にある」が 11.0%、「時々ある」が 44.1%と合わせて過半数を超えており、他の年代と比較して高くなっている。続いて、50 歳代が「常にある」が 7.4%、「ときどきある」が 42.0%、また、80 歳代が、「常にある」が 7.1%であり、「時々ある」が 44.6%と最も高くなっている。

男女の年代別では、男性の 30 歳代が、「常にある」が 15.1%、「時々ある」が 41.5%であり、合わせて 56.6%と半数を超えている。この年代は仕事に多忙な年代であるが、未婚の人も多くその影響もあることが推察される。

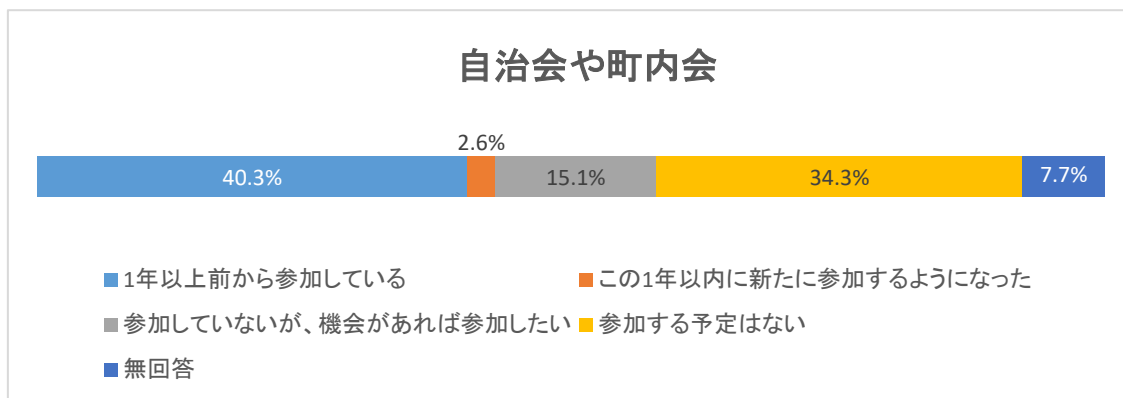
また、女性の 80 歳代は、「常にある」が 10.1%であり他と比較して高いが、「時々ある」は、6.3%とかなり低くなっている。独居や健康状態などによって閉じこもりがちになっている人が孤独感を感じていることが推察される。

男女の年代別では、全体的に男性の方が女性より「時々ある」が高い傾向が示されている。特に男性の高齢者では、80 歳代が「常にある」は 0 である一方、「ときどきある」が 48.5%、70 歳代で「常にある」が 2.2%、「時々ある」が 41.5%と高くなっている。男性の 70 歳代以上に向けた、社会参加のプログラムを開発・普及していく必要があると考えられる。

3. 社会参加の状況について

〔会やグループへの参加状況〕

問 13 あなたは次の①～⑧の会やグループに参加していますか。



ボランティアやNPO



- 1年以上前から参加している
- この1年以内に新たに参加するようになった
- 参加していないが、機会があれば参加したい
- 参加する予定はない
- 無回答

宗教団体（檀家や氏子を含む）



- 1年以上前から参加している
- この1年以内に新たに参加するようになった
- 参加していないが、機会があれば参加したい
- 参加する予定はない
- 無回答

PTAや保護者会



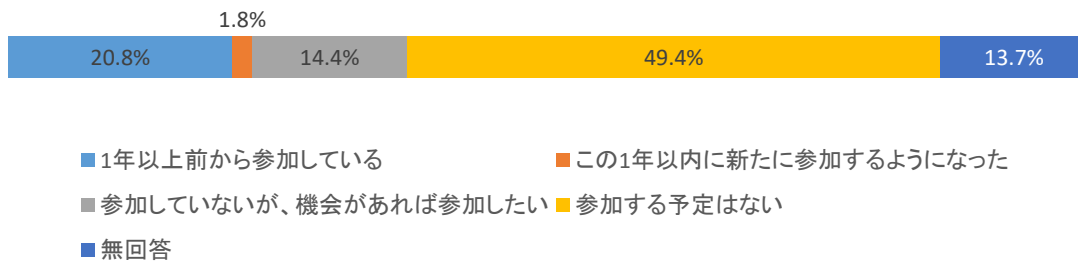
- 1年以上前から参加している
- この1年以内に新たに参加するようになった
- 参加していないが、機会があれば参加したい
- 参加する予定はない
- 無回答

趣味の会やスポーツクラブ

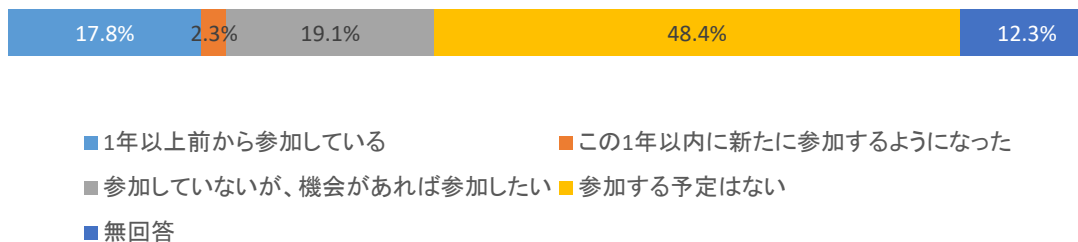


- 1年以上前から参加している
- この1年以内に新たに参加するようになった
- 参加していないが、機会があれば参加したい
- 参加する予定はない
- 無回答

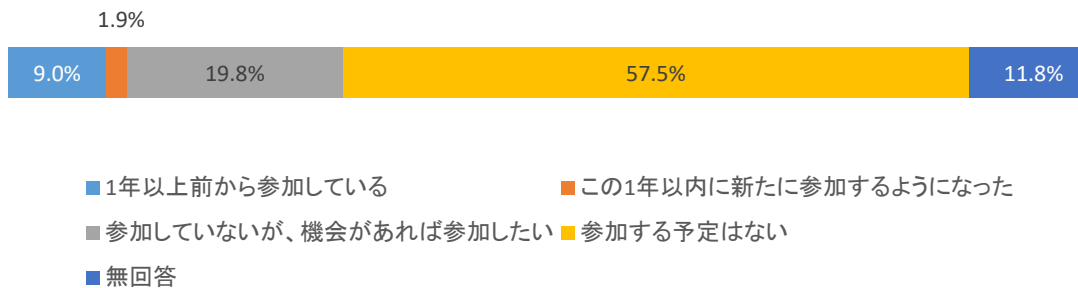
職場内の会やグループ



同じ学校出身者の会やグループ



地域のサロンや居場所



回答者の会やグループ（① 自治会や町内会、② ボランティアやNPO ③ 宗教団体（檀家や氏子を含む）④ PTAや保護者会 ⑤ 趣味の会やスポーツクラブ ⑥ 職場の会やグループ ⑦ 同じ学校出身者の会やグループ ⑧ 地域のサロンや居場所）への参加状況については、「1年以上前から参加している」が最も高かったのは、「自治会や町内会」で 40.3%であり、続いて、「職場の会やグループ」が 20.4%、「趣味の会やスポーツサークル」が 19.7%となっている。

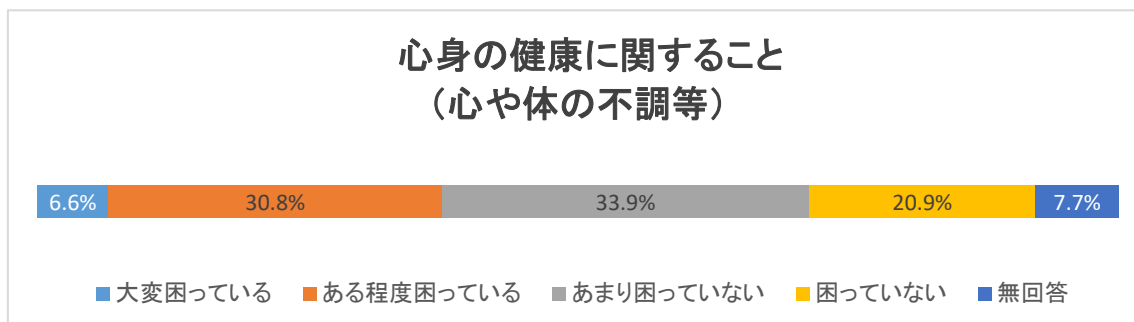
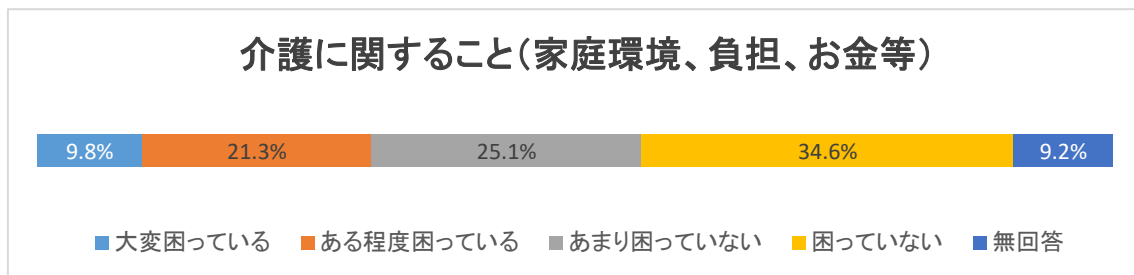
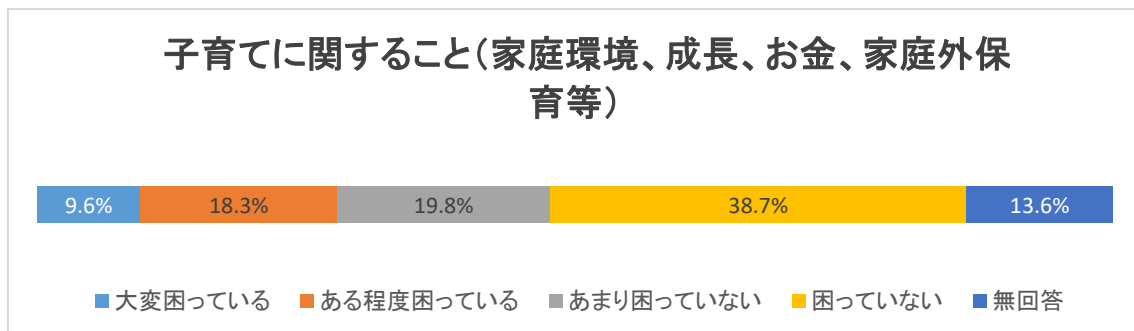
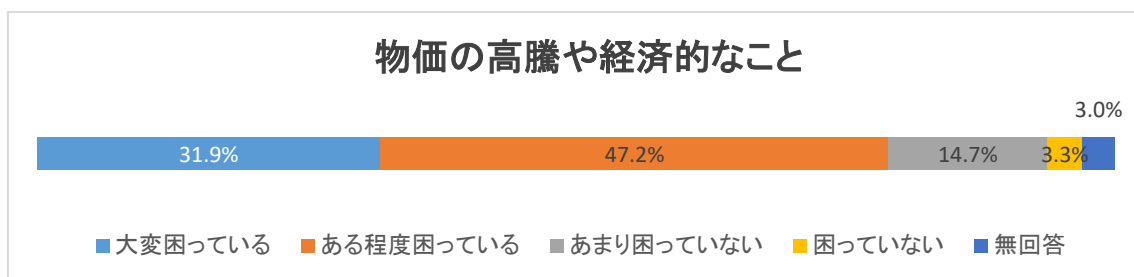
その一方、「参加していないが機会があれば参加したい」が最も高かったのは、「ボランティアやNPO」が 21.0%、続いて「地域のサロンや居場所」が 19.8%

となっている。この点から、既存の団体やグループだけでなく、地域において関心のある活動があれば、一定程度の住民が新たに参加する可能性があることを示していると言えよう。

4. 暮らしの困りごとについて

〔暮らしの困りごと〕

問 14 あなたやあなたの家庭が、最近暮らしの上で困っていることについてお答え下さい。



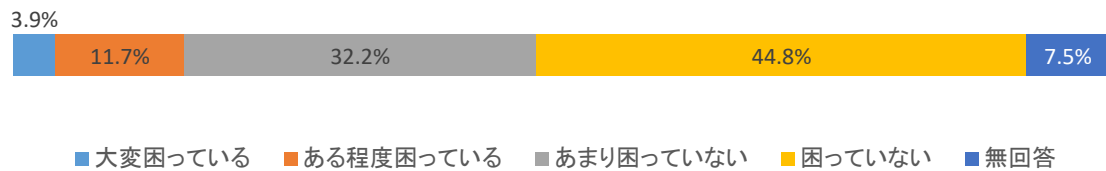
家族関係に関すること (DV、ひきこもり等)



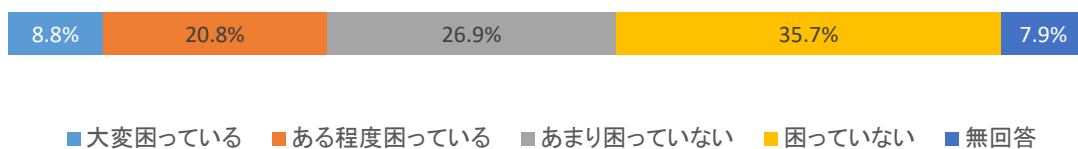
通院に関すること (移動、医療機関選び等)



買い物に関すること (場所、移動、搬送等)



住まいに関すること (家賃、空き家、修繕等)



回答者やその家族の最近の困りごとについて、「大変困っている」が最も高いのは、「物価の高騰や経済的なこと」で、31.9%と他の項目と比較して高くなっている。「ある程度困っている」と合わせると79.1%と約8割となっており、最近のインフレによる物価の高騰などが市民の暮らしに大きな影響を与えている

ことがうかがえる。

次に「介護に関すること（家庭環境、負担、お金等）」が 9.8%となっており、「ある程度困っている」が 21.3%であり、合わせて 30.1%と 3 割を超えている。年代によってはさらに高くなり、家族の中に介護問題で課題を抱える人の比率がかなり高いことが示されている。

同じく、「子育てに関すること（家庭環境、成長、お金、家庭外保育等）」が 9.8%となっている。「ある程度困っている」が 18.3%であり、合わせて 28.1%となっている。子育て世代だけでなく、回答者の約 4 分の 1 が三世帯世帯であることも影響していると考えられる。

続いて、「住まいに関すること」が 8.8%となっている。「ある程度困っている」が 20.8%であり、合わせて 29.6%と約 3 割の人が、住まいに関して課題を感じている。回答者の 87.2%が持ち家であるが、その維持管理や相続などに関する点なども課題として感じている人が多いのではないかと想定される。

その他、通院に関すること（移動、医療機関選び等）が 5.2%、「買い物に関すること（場所、移動、搬送等）」が 3.9%と全体的には高くないが、自動車などの移動手段などの条件によって異なり、年代や地域によっても回答に差が生じると考えられる。

また、「家族関係に関すること（DV、ひきこもり等）」は、「大変に困っている」は、2.8%と必ずしも高くないが、「ある程度困っている」が 7.6%となっており、あわせると 10.4%と 1 割を超えており、必ずしも低いとは言えないことに留意する必要がある。内閣府の調査（2023 年）によると、ひきこもり状態にある人は、15～39 歳の 2.05%、40～64 歳の 2.02%と全国で 146 万人と推計されており、本調査の結果は、DV も含まれるが、全国調査と同じようにひきこもり状態にある人が相当数存在していることを想定する必要があると考える。

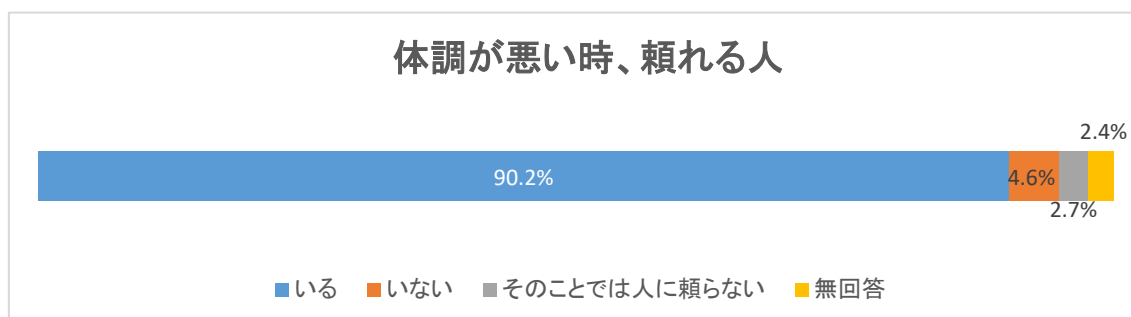
自由回答について、領域ごとに分類したものが下記の表である。それによると、最も多いのは、「自宅の管理・近隣環境・交通問題等について」が 35 件と最も多くなっている。人口減少などによる幅広い地域の生活環境に関する課題があげられている。次いで、「介護関連について」が 29 件となっており、高齢化の進展によって介護に関する課題が広く住民の生活課題となっていることを示していると言えよう。さらに、「現在の経済的問題について」が 26 件となっており、最近のインフレが大きく住民の暮らしに相当の影響を与えていることを示している。

暮らしの困りごとについての自由回答の分類別回答数

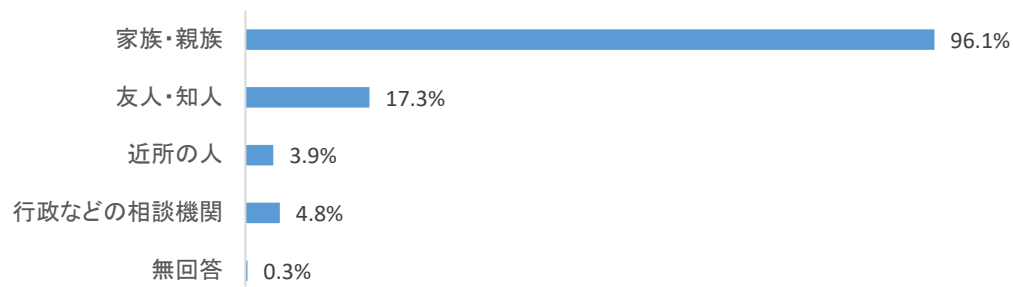
介護関連について	29
子育て関連について	18
介護を除く障がい関連について	7
空き家・将来の自宅の処分について	21
自宅の管理・近隣環境・交通問題等について	35
自分を含む家族関連（介護子育て以外）について	24
老後・将来の経済的不安等について	7
現在の経済的問題について	26
その他	6
計	173

【困った時頼れる人について】

問 15 あなたやあなたの家族が次にあげる①～⑨のことがらで困った時、頼れる人はいますか。また、「1 いる」と答えた方にお聞きします。それはだれですか。

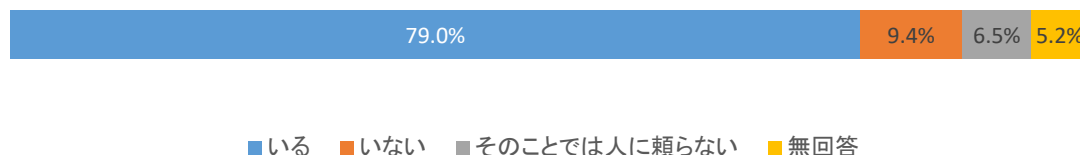


体調が悪い時に頼れる人は誰か

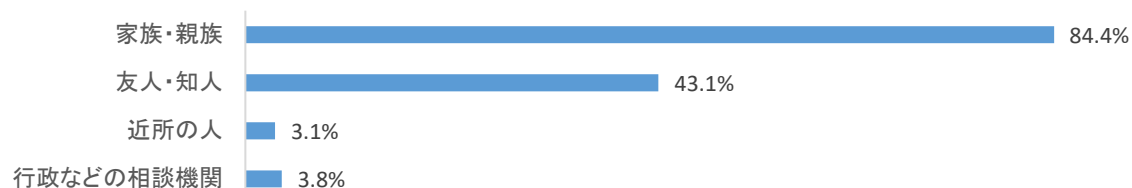


体調が悪いとき、頼れる人が、「いる」人は、90.2%となっている。一方、「いない人は 4.6%、「そのことでは人に頼らない」が 2.7%となっている。「いる」人の内、頼れる人（複数回答）は、「家族・親族」が 96.1%と大半であるが、「友人・知人」が 17.3%となっている。

家庭や仕事のこと等で精神的に苦しい時に頼れる人



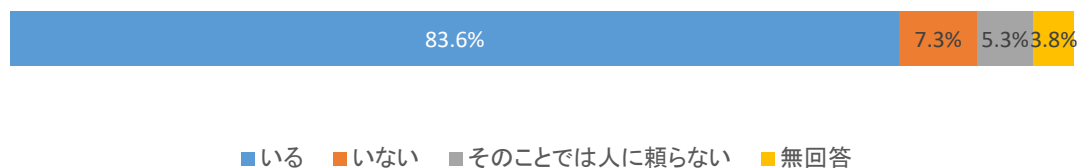
家庭や仕事のこと等で精神的に苦しい時に頼れる人は誰か



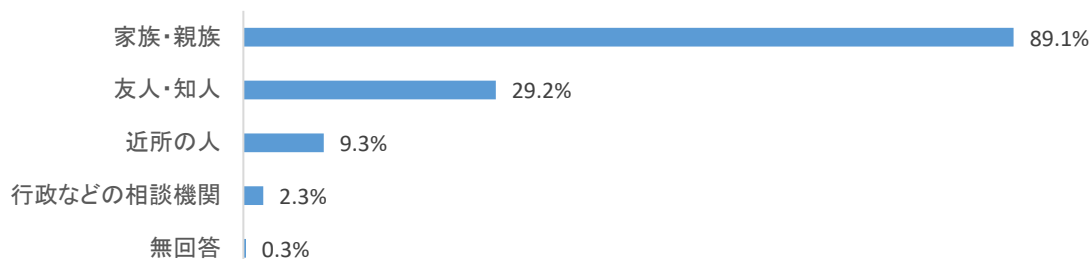
家庭や仕事のこと等で精神的に苦しい時に頼れる人は、「いる」が 79.0%と約 8 割となっている。その一方、「いない」と回答した人が 9.4%、また「そのことで人に頼らない」と回答した人が 6.5%となっている。いると回答した人の内、頼れる人（複数回答）は、「家族・親族」が 84.4%、「友人・知人」が 43.1%となっている。「行政などの相談機関」は、3.8%となっている。問題によって異

なると考えられるが、「いない」と回答した人も一定数いることを考えると、公共的な相談機関への相談は、まだ抵抗感を抱く人が多いことが示されており、早期に相談することの必要性など市民への情報提供・啓発が必要と考えられる。

日頃のちょっとしたことの手助けで頼れる人の有無

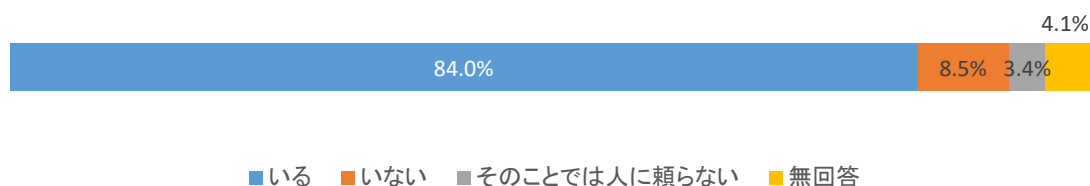


日頃のちょっとしたことの手助けで頼れる人は誰か

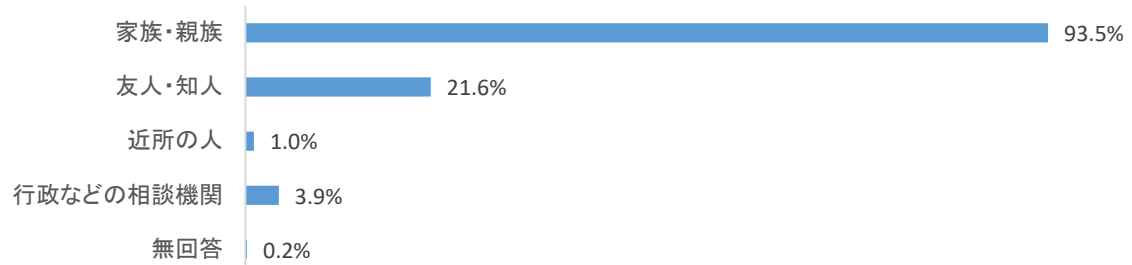


日頃のちょっとしたことの手助けについて、頼れる人が「いる」と回答した人は、81.6%と約8割となっている。一方、「いない」と回答した人は、7.3%である。いる人の内、頼れる人（複数回答）は、「家族・親族」が89.1%と約9割となっている。また、「友人・知人」が29.2%、「近所の人」が9.3%と他の項目と比較して高い傾向を示している。あまり負担をかけない内容であれば、単身高齢者など、家族・親族以外でも友人・知人、近所の人を頼ることができる場合があることを示していると考えられる。

重要な事柄の相談に頼れる人



重要な事柄の相談を頼れる人は誰か

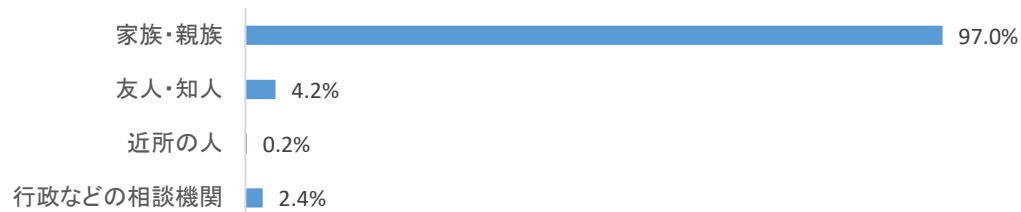


重要な事柄の相談を頼れる人が「いる」人は、84.0%となっている。一方、「いない」と回答した人が8.5%、「そのことで人に頼らない」と回答した人が3.4%となっている。「いる」人の内、頼れる人（複数回答）は、「家族・親族」が93.5%と9割を超えているが、「行政などの相談機関」は3.9%にとどまっている。相談内容にもよるが、やはり公共機関における相談についての情報提供や啓発を一層拡充する必要があると考えられる。

いざという時の金銭的な援助をしてくれる人



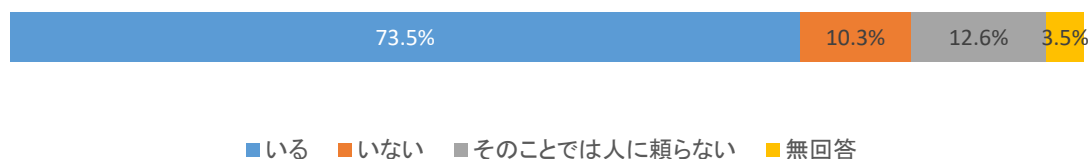
いざという時の金銭的な援助をしてくれる人は誰か



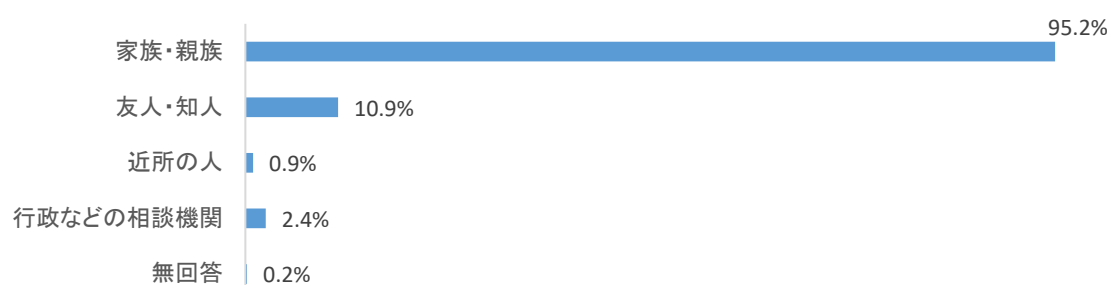
いざという時の金銭的な援助をしてくれる人は、「いる」と回答した人は、68.1%となっている。一方、「いない」と回答した人は、16.3%、「そのことで人に頼らない」が、10.9%となっており、他の項目と比較して高い傾向を示している。

いる人（複数回答）の内、「家族・親族」が97.0%と大半となっており、やはり金銭的な援助を、家族・親族以外に頼ることは現実的になかなか難しいと考える人が大多数であることを示していると言えよう。

通院や買い物の世話をしてくれる人



通院や買い物の世話をしてくれる人は誰か



通院や買い物の世話をしてくれる人について、「いる」と回答した人は、73.5%となっている。一方、「いない」が、10.3%、そのことで人に頼らないが、12.6%となっている。「いる」と回答した人の内、頼れる人（複数回答）は、「家族・親族」が95.2%となっている。「友人・知人」も、10.9%と他の項目と比較してやや高くなっている。この項目は、本人の年齢や自動車の運転の可否、通院や買い物の利便性なども影響していると考えられる。

家を借りる時の保証人として頼れる人

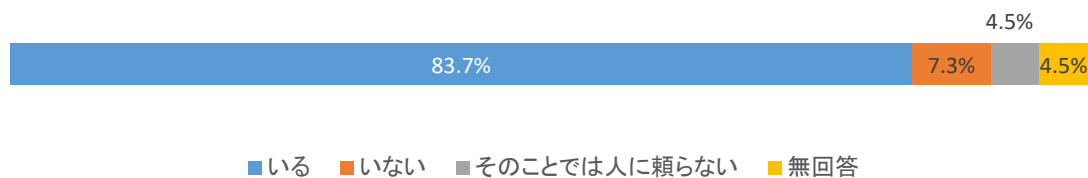


家を借りる時の保証人として頼れる人は誰か

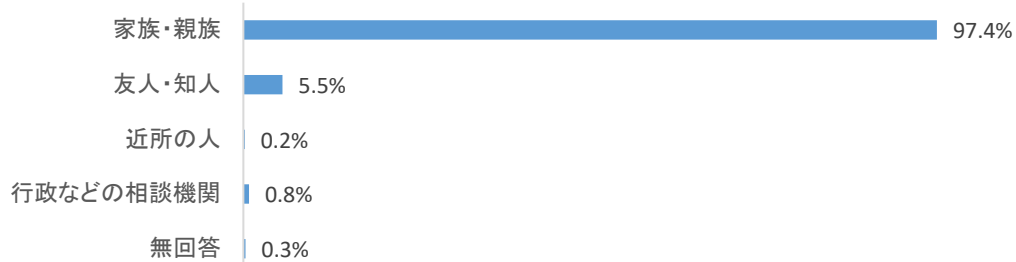


家を借りる時の保証人として頼れる人について、「いる」と回答した人は、59.6%と約6割となっている。一方、「そのことで頼らない」が、14.7%と他の項目と比較して高くなっている。回答者の内、持ち家率が高いことも影響していると考えられる。「いない」は、12.3%となっている。いる人の内、頼れる人（複数回答）については、「家族・親族」が95.7%と大半となっている。やはり、保証人を「友人・知人」や「近所の人」に頼ることは、現実的に難しいと考える人が大半であることを示している。

病院や福祉施設に入所・入院する際に身元保証人を頼める人



病院や福祉施設に入所・入院する際に身元保証人として頼れる人は誰か



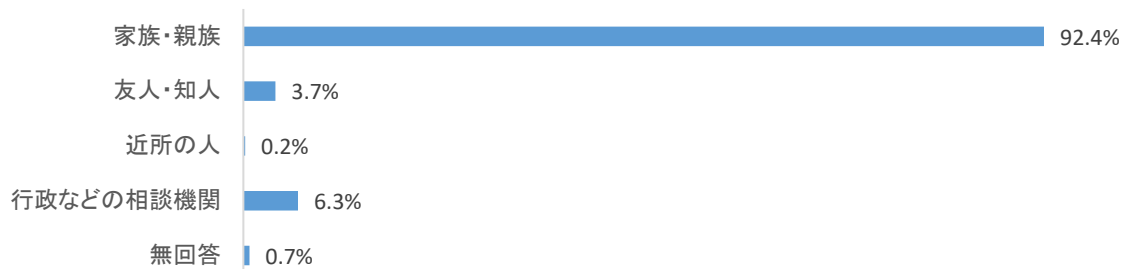
病院や福祉施設に入所・入院する際に身元保証人として頼れる人について、「いる」と回答した人は、83.7%となっている。一方、「いない」と回答した人が7.3%、{そのことで人に頼らない}と回答した人が4.5%となっている。現在、病院や福祉施設に入所・入院する際には、一般的に身元保証人を求められるので、1割強の人がこの点で課題を有すると考えられる。また、頼れる人（複数回答）としては、「家族・親族」が97.4%と大半となっており、その他は低い数値となっている。

単身化や多死化が進んでいる中で、身寄りのない単身高齢者等の終身サポートのあり方について、現在、厚生労働省の「地域共生社会の在り方検討会議」においても論点となっている。鶴岡市においても、身寄りのない単身高齢者等の終身サポートのあり方について幅広く検討する必要があると考えられる。

成年後見人・保佐人として頼れる人



成年後見人・保佐人として頼れる人は誰か



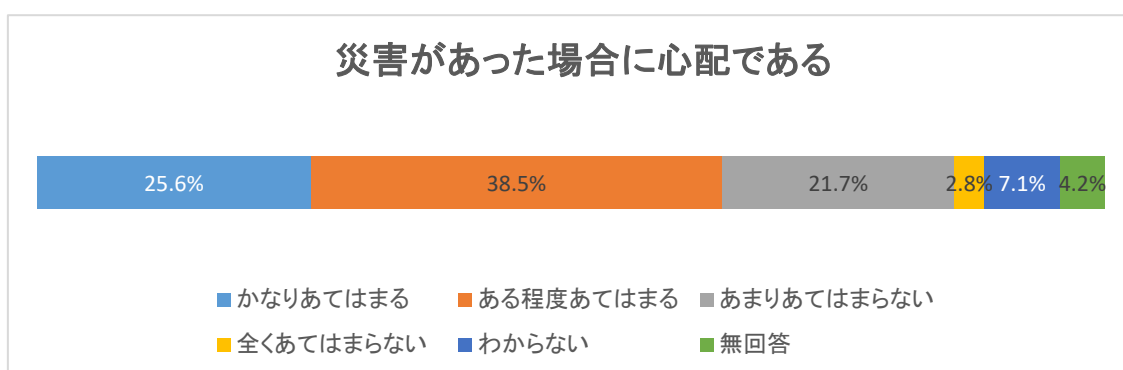
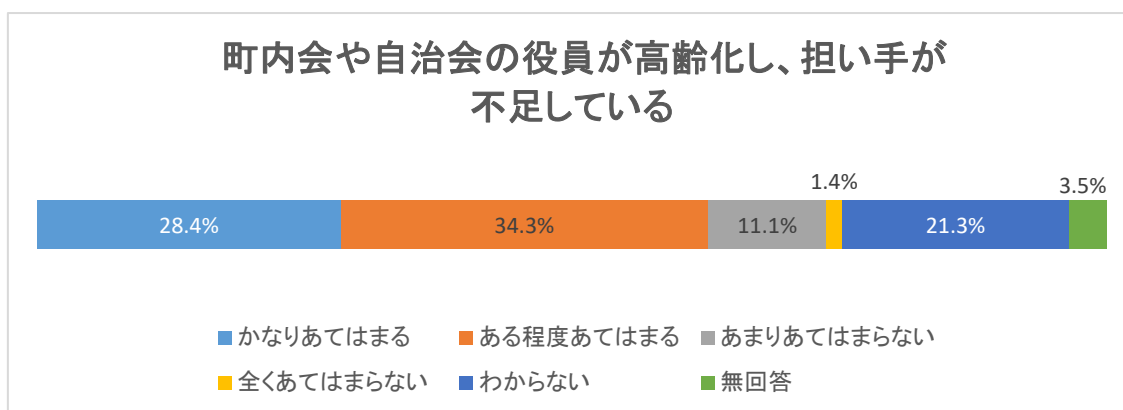
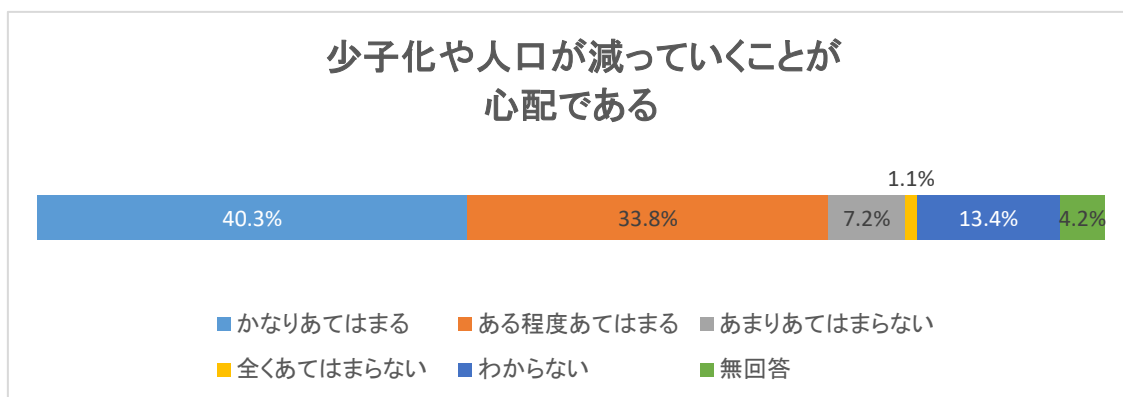
成年後見人・補佐人として頼れる人について、「いる」と回答した人は、58.6%と他の項目と比較して低くなっている。一方、「いない」は15.7%と他の項目と比較してやや高くなっている。また、「そのことで人に頼らない」が12.6%となっており、成年後見制度についての理解度も関係していると考えられる。

頼れる人（複数回答）については、「家族・親族」が92.4%となっており、その他では、「行政などの相談機関」が6.3%と他の項目と比較してやや高くなっており、他は低くなっていることが特徴としてあげられる。

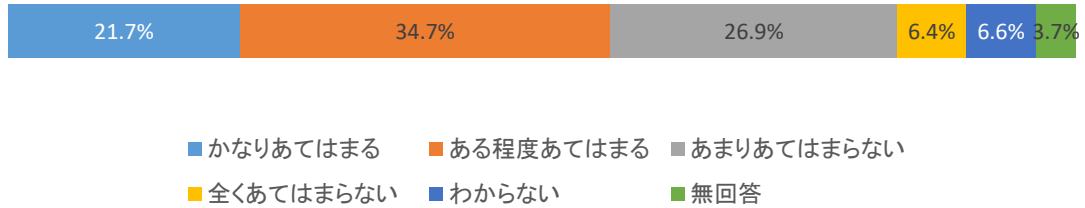
5. 地域の課題について

〔地域の課題について〕

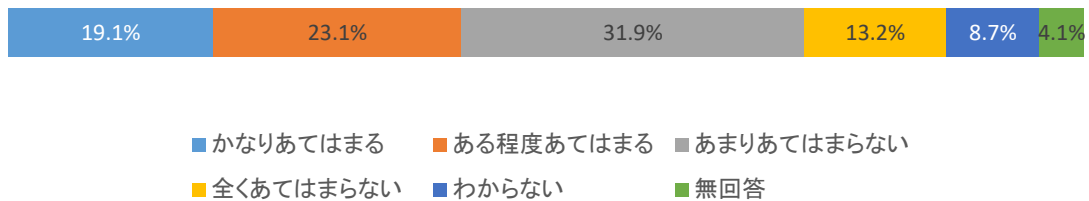
問 16 あなたがお住まいの地域の課題について、あてはまることについてお答えください。



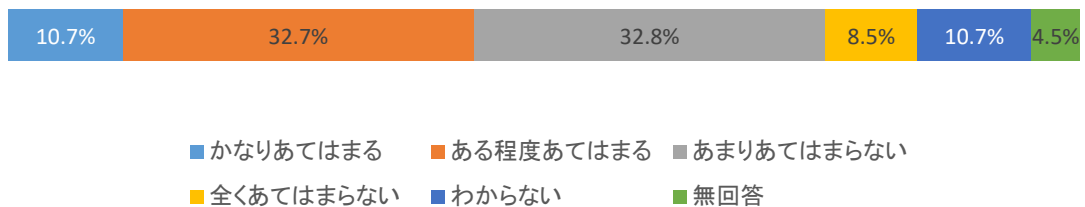
積雪時の除雪ができるか心配である



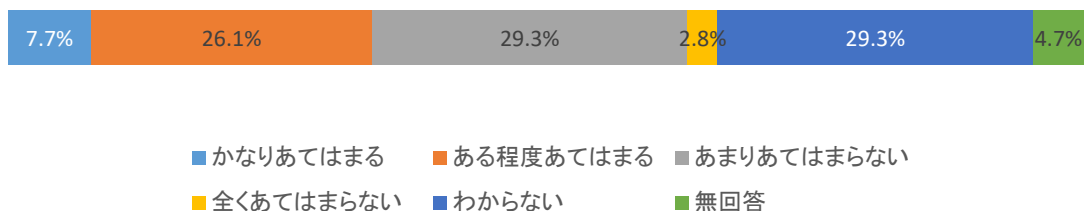
買い物や通院が不便である



近所づきあいが希薄である



地域で孤立している人が増えている



回答者が捉える地域の課題について、「かなりあてはまる」の比率が最も高いのは、「少子化や人口が減っていくことが心配である」が 40.3%となっている。「ある程度あてはまる」が 33.8%となっており、合わせて7割以上が課題とし

て回答しており、市民の大半の人々が、人口減少や少子化の進展について課題として考えていることを示している。

続いて、「町内会や自治会の役員が高齢化し、担い手が不足している」が「かなりあてはまる」が28.4%、「ある程度あてはまる」が34.3%と合わせて6割を超えており、コロナ禍の影響や高齢化による役員の高齢化や担い手の不足について、市民の多くが課題として捉えていることを示している。

三番目には、「災害があった時に心配である」が25.6%となっており、「ある程度あてはまる」が38.5%と合わせて6割を超えている。去年の能登半島地震、また夏に隣の酒田市において深刻な豪雨災害があり、多くの市民が、災害の発生を地域の課題として捉えていると言えよう。

四番目には、「積雪時の除雪が心配である」が、「かなりあてはまる」が21.7%「ある程度あてはまる」が34.7%となっており、合わせると5割を超えている。高齢化が進展していること、また地域による積雪量の違いなども反映されていると考えられる。

次に、「買い物や通院が不便である」は、「かなりあてはまる」が19.1%、「ある程度あてはまる」が23.1%となっており、合わせると42.2%と約4割となっている。この問いは、買い物や通院の利便性、自動車の運転の可否などが影響していると考えられるが、かなり多くの人々が課題として捉えていることを示している。

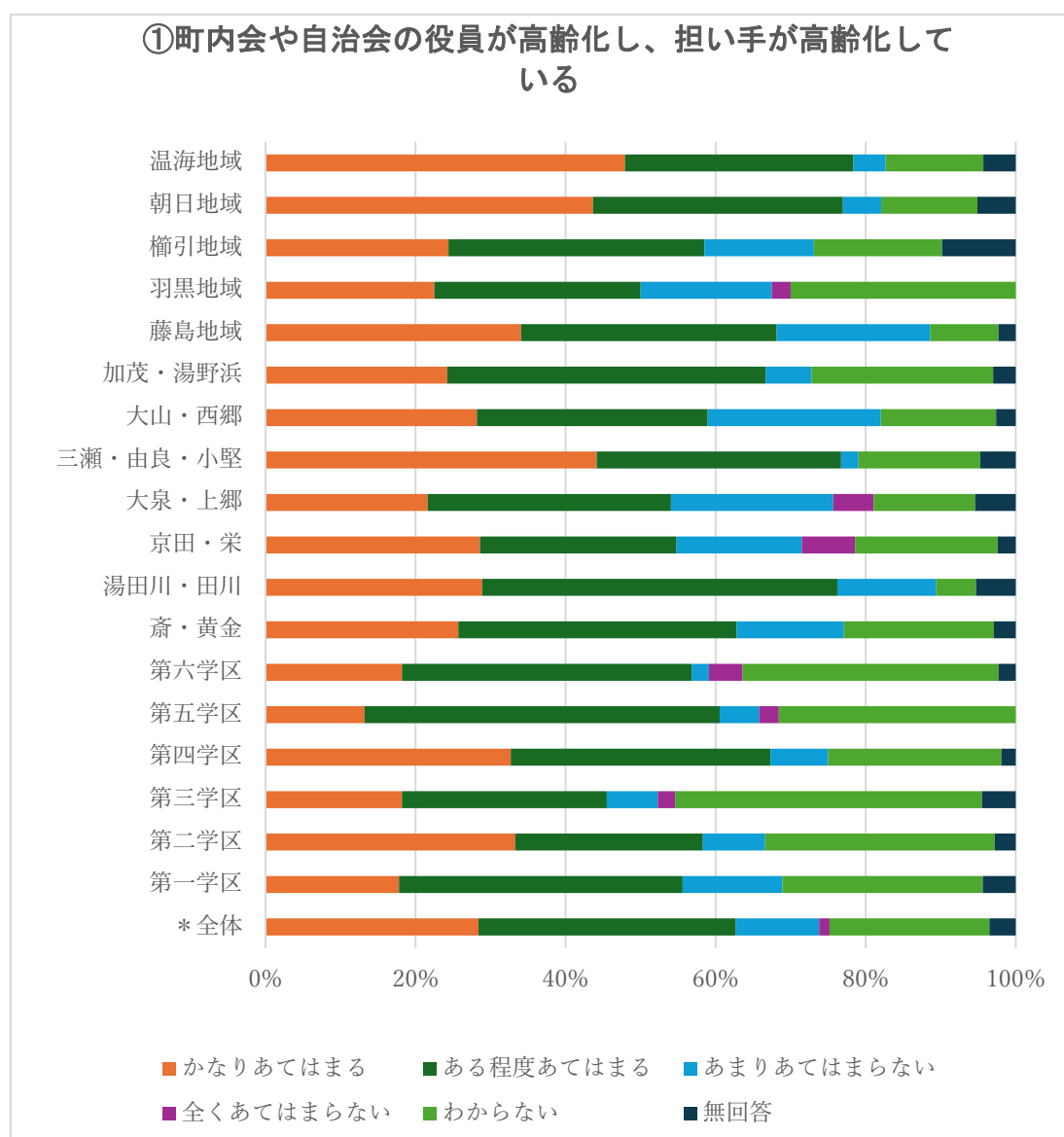
「近所づきあいが希薄である」は、「かなりあてはまる」は、10.7%と高い比率ではないが、「ある程度あてはまる」が32.7%と3割を超えており、合わせて4割を超えている。長く続いたコロナ禍の影響も考えられるが、かなり多くの市民において近所づきあいが希薄になっていることを課題として捉えていることを示している。

最後に、「地域で孤立している人が増えている」は、「かなりあてはまる」は、7.7%、「ある程度あてはまる」が26.1%であり、合わせると33.8%と約3分の1となっており、かなり高くなっている。その一方、「わからない」が29.3%と約3割となっている。この課題は、住民にとって可視化しにくい課題であることが回答の特徴として表われていると言えよう。

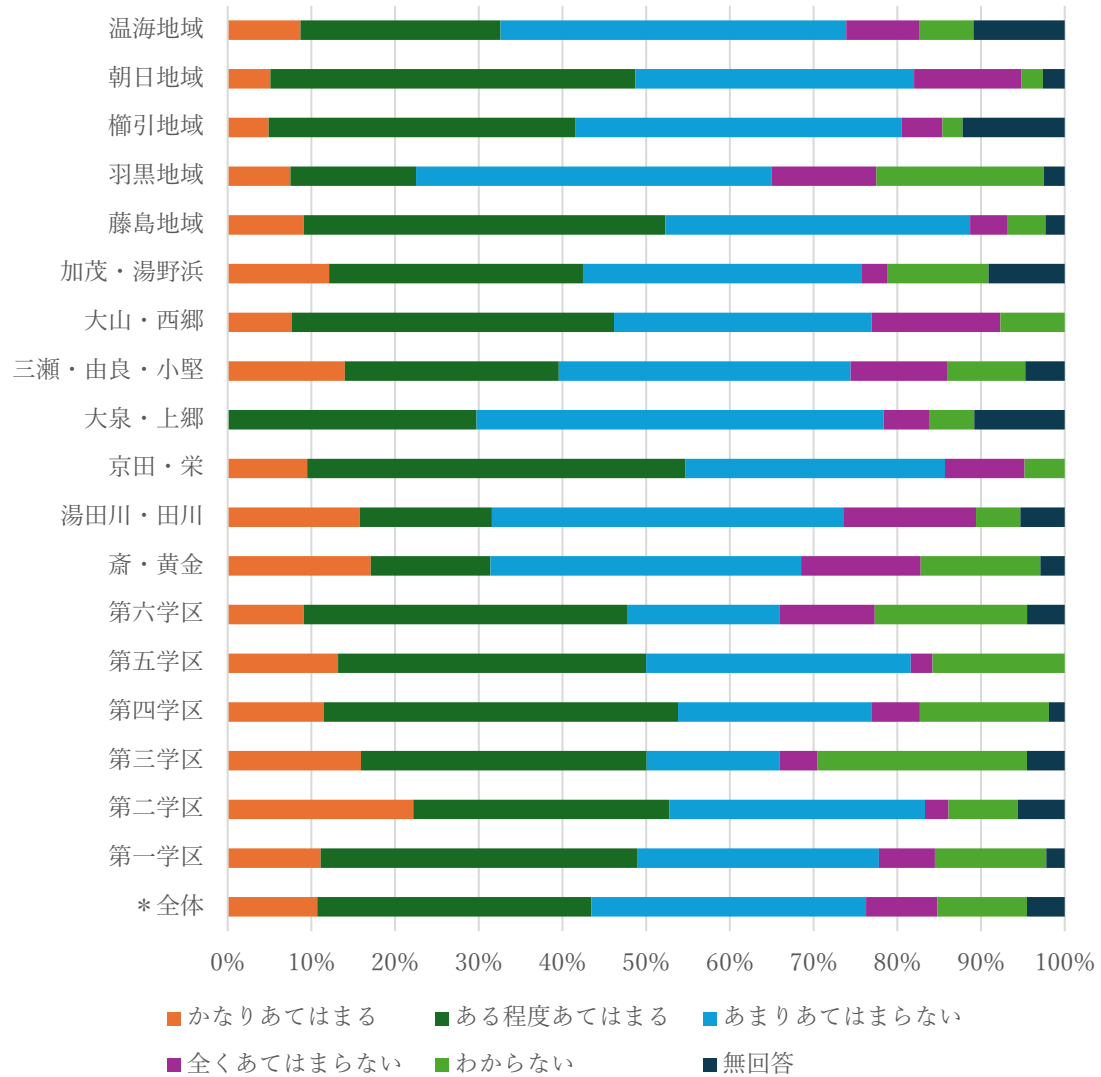
【地域別の地域の課題】

以下の図は、下記の①から⑦の地域の課題について、地域別の回答を示している。地域の地理的な条件や利便性、人口減少や高齢化の進展の程度によって、ある程度回答の特徴が示されていると考えられる。

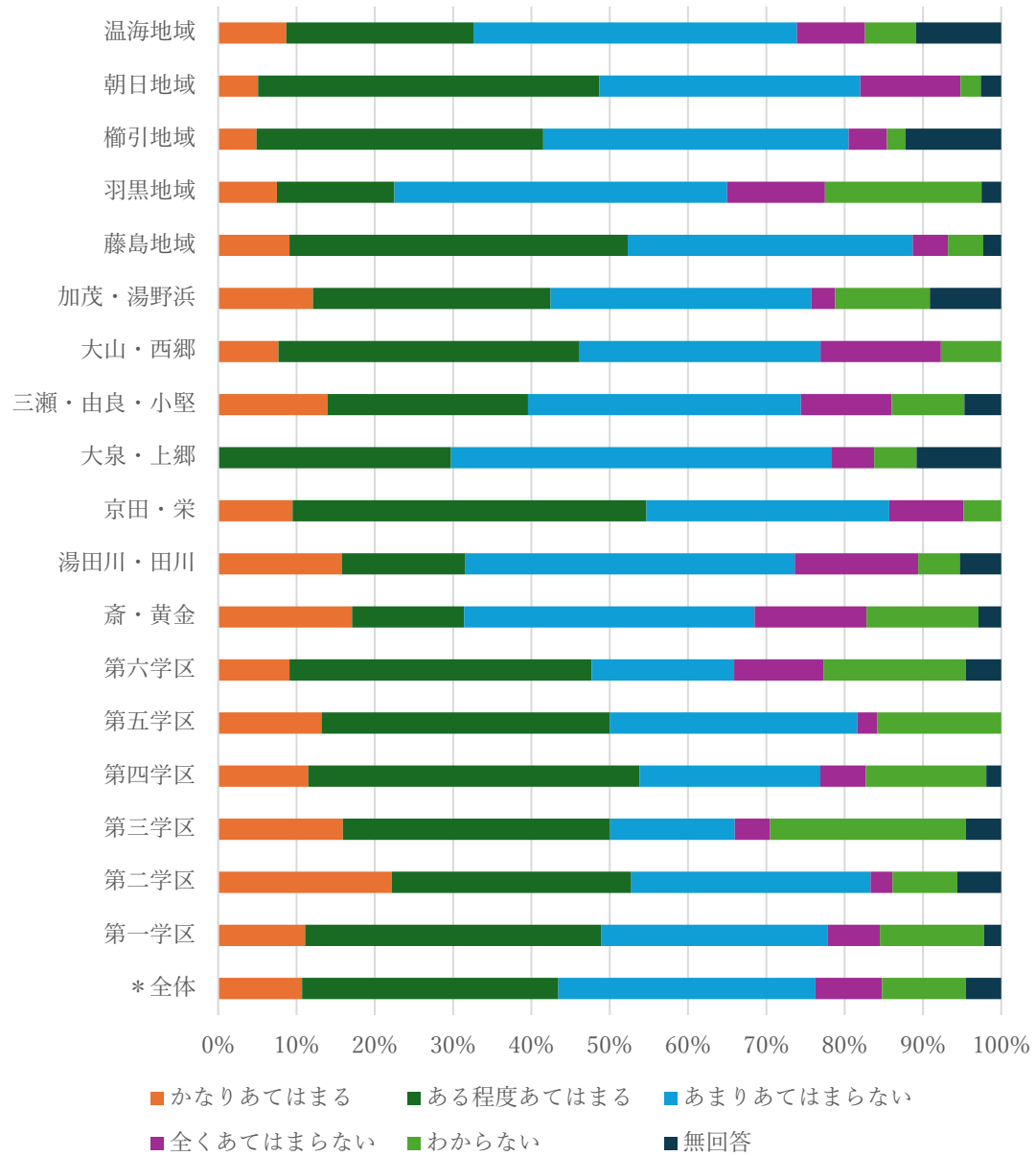
- ① 町内会や自治会の役員が高齢化し、担い手が不足している
- ② 少子化や人口が減っていくことが心配である
- ③ 近所づきあいが希薄である
- ④ 地域で孤立している人が増えている
- ⑤ 買い物や通院が不便である
- ⑥ 災害があった場合に心配である
- ⑦ 積雪時の除雪ができるか心配である



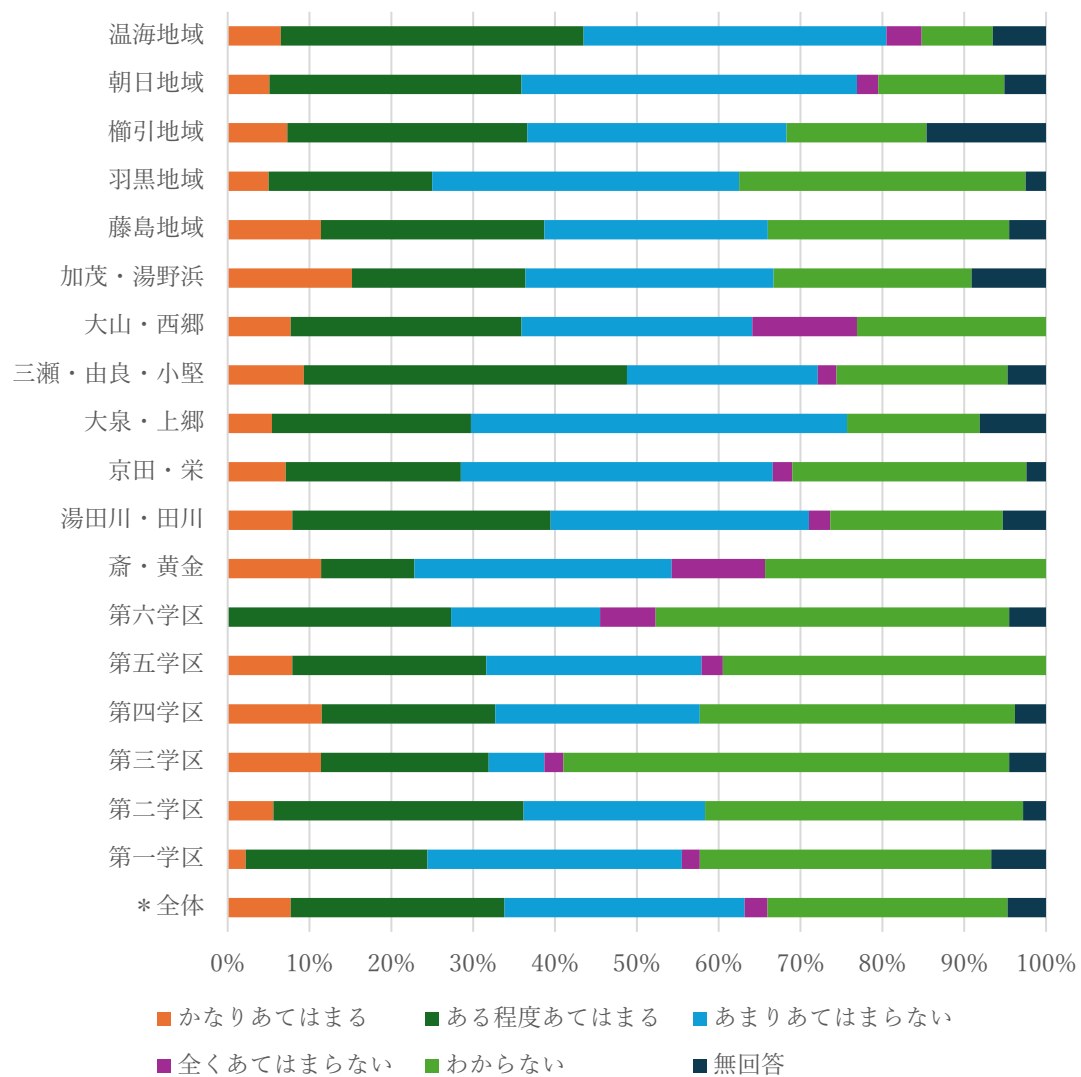
②少子化や人口が減っていくことが心配である



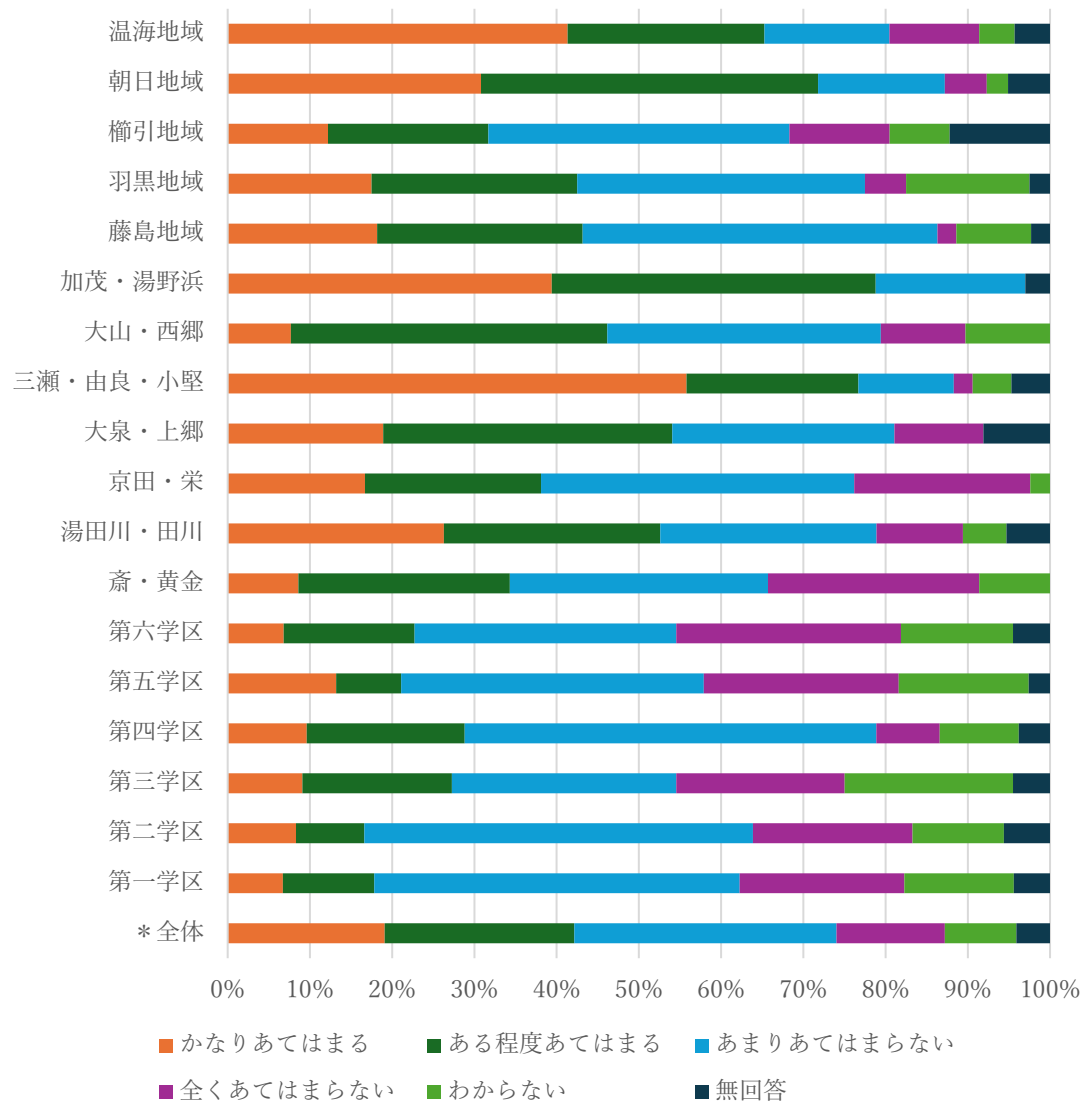
③近所つきあいが希薄である



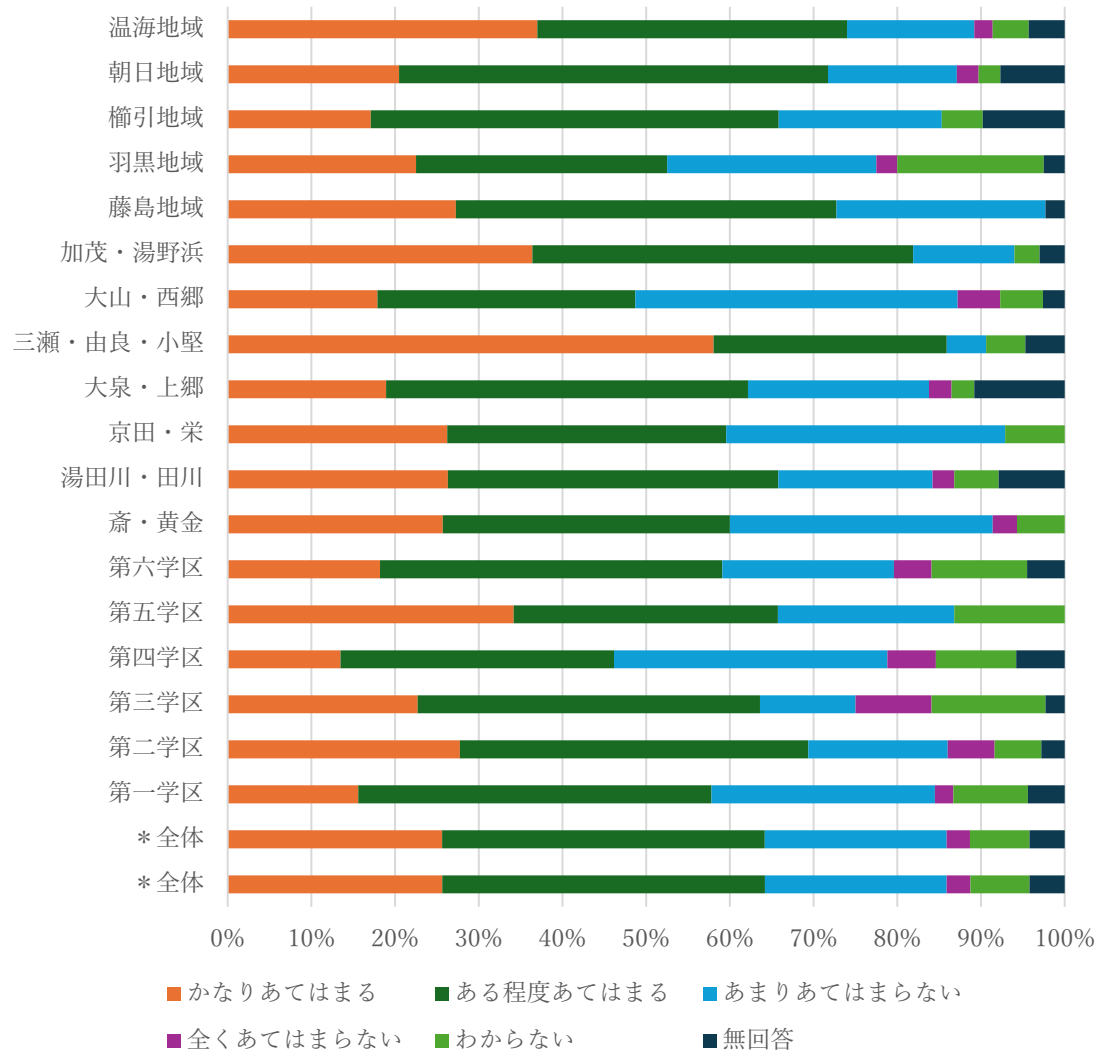
④地域で孤立している人が増えている



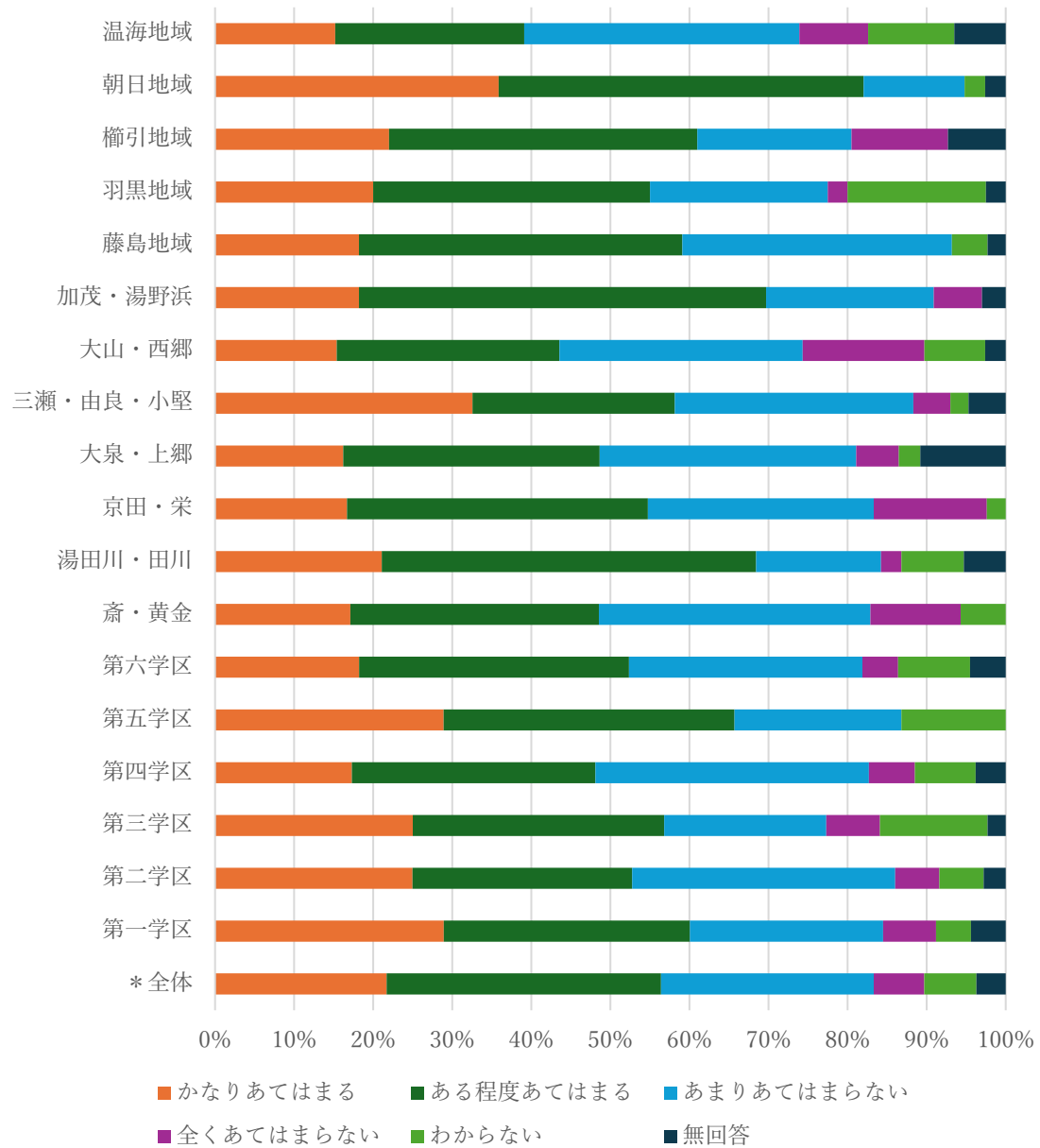
⑤通院や買い物が不便である



⑥災害があった場合に心配である



⑦積雪時の除雪ができるか心配である



（その他の地域の課題についての自由回答）

問 16 の「その他、あなたがお住まいの地域の課題について、ご自由にお書き下さい」との自由回答について、下記の通り各地域のその他の自由回答で記述された内容を整理している。各地域の高齢化や人口減少などに伴う特徴的な地域の課題が示されていると考える。

（第一学区）

・除雪について・医療の問題・一人暮らしが多い・高齢化

（第二学区）

・近隣との関係の希薄さ・高齢に伴う参加の限界・若手不在・除雪について・人口減少・高齢化

（第三学区）

・道路環境などの整備・高齢に伴う参加の限界・高齢化・付き合いが無いので不明

（第四学区）

・除雪について・行政の関与の強化が必要・空き家の増加・自治会等での役職を引き受けるのが高齢者のみ・高齢化と行政頼り

（第五学区）

・医療の問題・住民のマナー・災害が心配・除雪について・交通手段・地縁への参加方法・関係の希薄さ・商店街の活気のなさ

（第六学区）

・除雪について・高齢化・近隣住民との関係・災害が心配

（斎・黄金地域）

・除雪について・引き受ける人が少なく役職を掛け持ちしなくてはいけない・害獣被害・災害が心配

（湯田川・田川地域）

・交通手段・年代ごとの考え方の相違・害獣被害・自治会等での役職を引き受けるのが高齢者のみ・地域の支援先が高齢者中心

(京田・栄地域)

- ・ COVID-19 を理由にして行事が廃止された・町内会費・除雪について・災害対策への疑問・人口減少・地域コミュニティ・老朽化

(大泉・上郷地域)

- ・ 就業者が日中地域にいない・交通手段・家庭問題で行事に参加出来ない・危険区域の調査について

(三瀬・由良・小堅地域)

- ・ 近隣との関係の希薄さ・災害が心配・地域の排他性・一人暮らし増加・人口減少・子供が地域にいない

(大山・西郷地域)

- ・ 住民との関係・高齢化・行政への不信・災害が心配・交通手段・自治会活動の負担の重さ・婚姻率・子供たちの交流の場の減少

(加茂・湯野浜地域)

- ・ 高齢に伴う参加の限界・交通手段・人口減少・道路の混雑

(藤島地域)

- ・ 先日の台風被害・交通手段・災害が心配・近隣との関係が希薄・引き受ける人が少なく役職を掛け持ちしなくてはいけない・除雪について・草刈り・空き家・人口減少・組織の見直し

(羽黒地域)

- ・ 同世代がいない・騒音問題・空き家・こども向け施設不足・交通手段

(櫛引地域)

- ・ 民生委員の役割がよく分からない・地域の排他性・婚姻率・災害が心配・交通手段

(朝日地域)

- ・ コミュニティ活動・将来への不安・除雪について・交通手段・災害が心配・介護関連の土日対応・高齢化

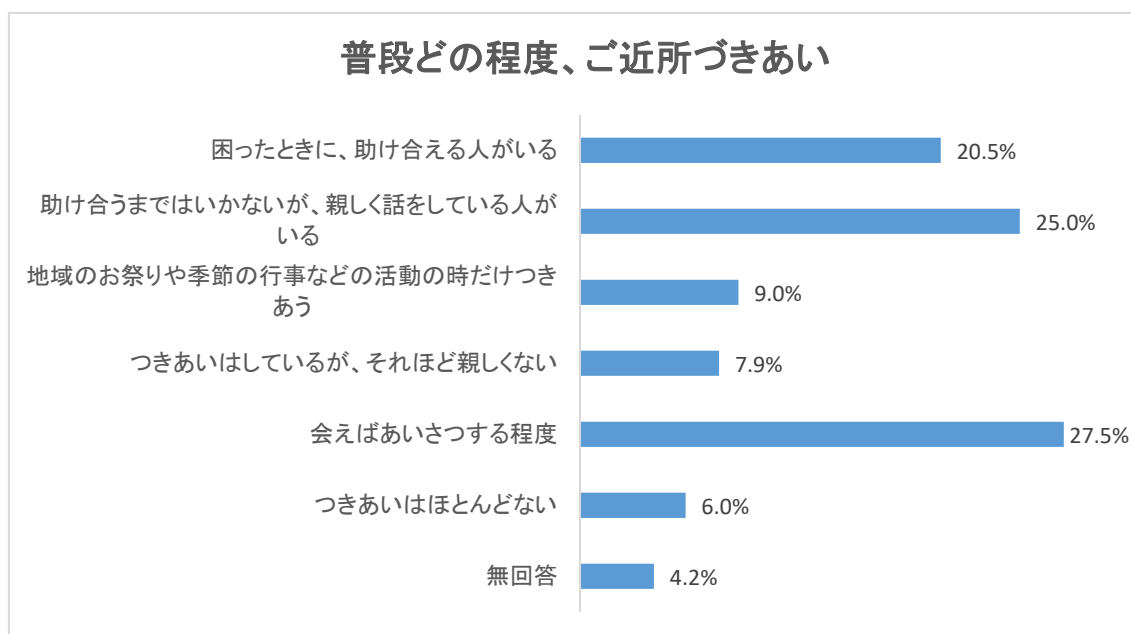
(温海地域)

- ・高齢に伴う参加の限界・空き家・高齢化・商業施設等の不足・害獣被害・観光優先への疑問・組織の見なおし

6. 地域の支えあいについて

〔ご近所つきあいについて〕

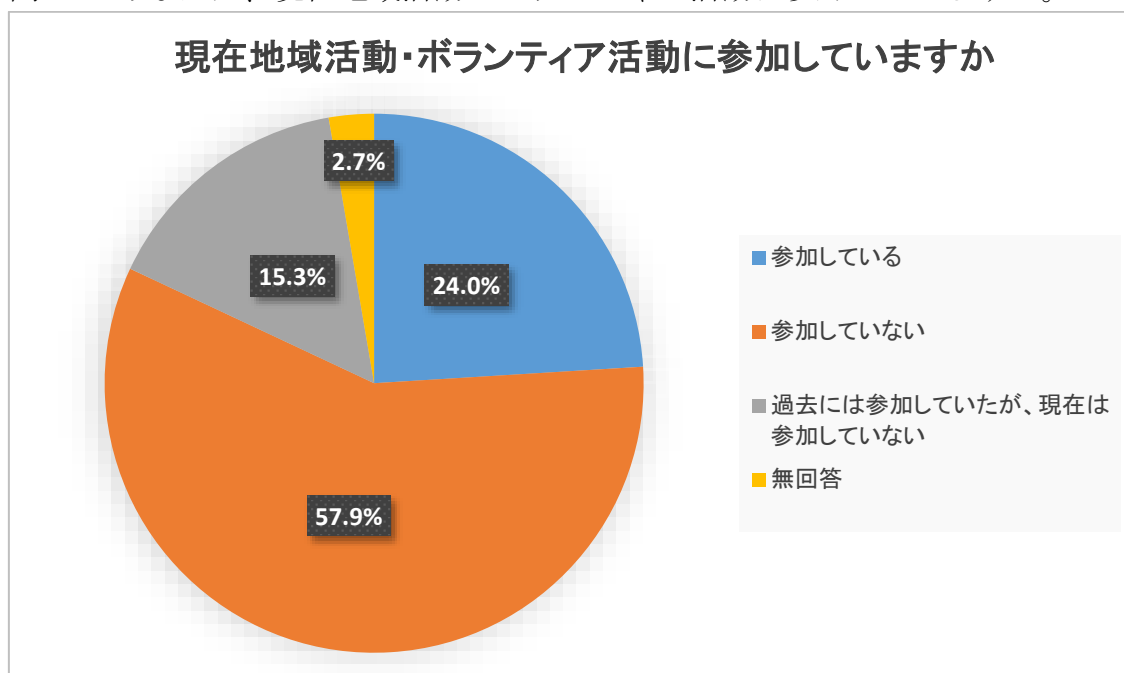
問 17 あなたは普段どの程度、ご近所づきあいをしていますか。



ご近所付き合いは、孤立を予防したり、いざという時の助けにもなり地域福祉を考える上では重要である。普段のご近所付き合いの程度についての回答をみると、「困ったときに、助け合える人がいる」20.5%、「助け合うまではいかないが、親しく話をしている人がいる」25.0%と、比較のご近所付き合いをしているという回答が合わせて45.5%を占めた。鶴岡市では一定程度、ご近所付き合いが行われていることが伺える。一方、「会えばあいさつする程度」という回答が27.5%と最も多い回答となっており、ご近所付き合いが希薄になっている人も多くなっている現状もある。また「つきあいはほとんどない」6.0%という結果は、孤立する可能性のある方が一定数いることも示しており、見守り活動などの地域福祉活動などでの対策が必要となってくると考えられる。

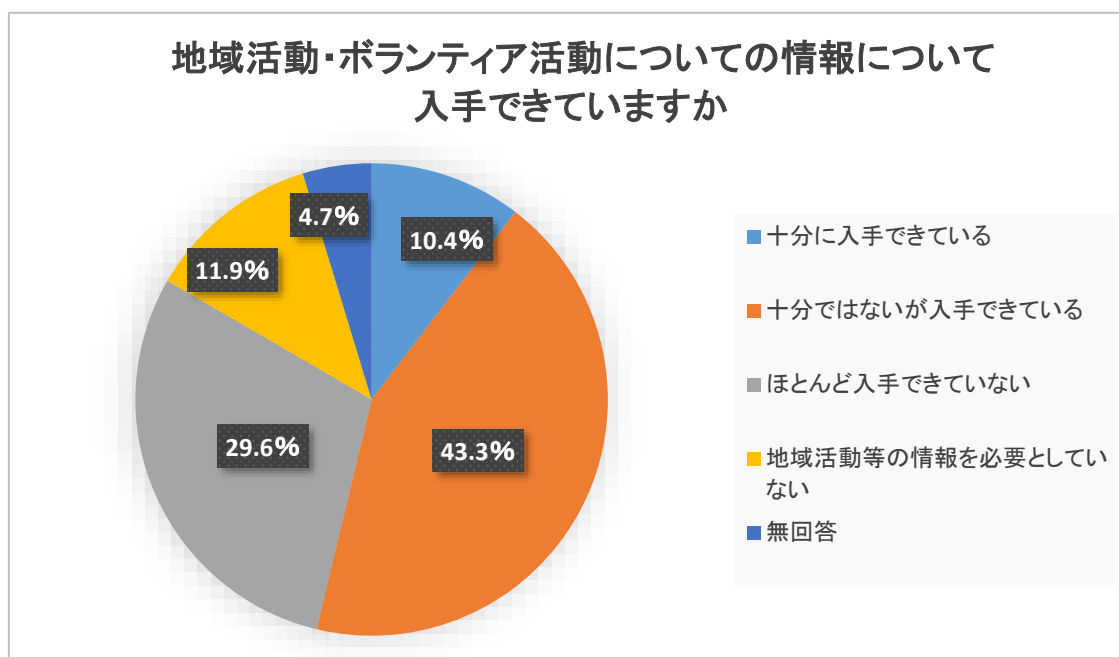
〔地域活動・ボランティア活動について〕

問 18 あなたは、現在地域活動・ボランティア活動に参加していますか。



ボランティア活動に現在参加している人は 24.0%とおおよそ 4 人に 1 人の方がボランティア活動に参加している。総務省統計局の「令和 3 年社会生活基本調査」によれば、2021 年の全国のボランティア活動の行動者率は 17.8%となっている。これは 2016 年の 26.0%から大幅に減少しているが、背景にはコロナ禍の影響が考えられる。鶴岡市でもコロナ禍の影響で一時的にボランティア活動への参加が減少した可能性があるが、現在は徐々に回復傾向にあるのではないかと考えられる。

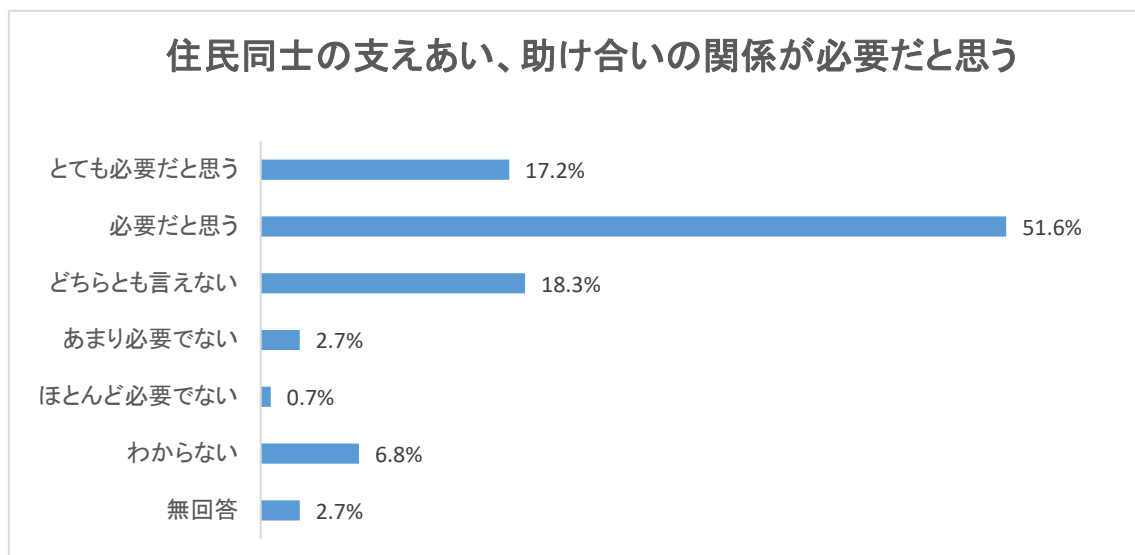
問 19 あなたは、地域活動・ボランティア活動についての情報について入手できますか。



地域活動やボランティア活動を活性化するためには、どのような地域活動やボランティア活動が求められているか、どのようにすれば参加できるかなどについての、わかりやすい情報提供が重要である。結果をみると、「十分に入手できている」が 10.4%と、情報提供が十分だと感じている人は1割程度にとどまった。「十分ではないが入手できている」が最も多く 43.3%、次いで「ほとんど入手できていない」が 29.6%と、情報提供が十分でないと感じている人が7割以上を占める結果となった。今後、地域活動やボランティア活動の効果的な情報提供の方法を検討する必要があるといえよう。

〔住民同士の支えあい、助け合いの関係について〕

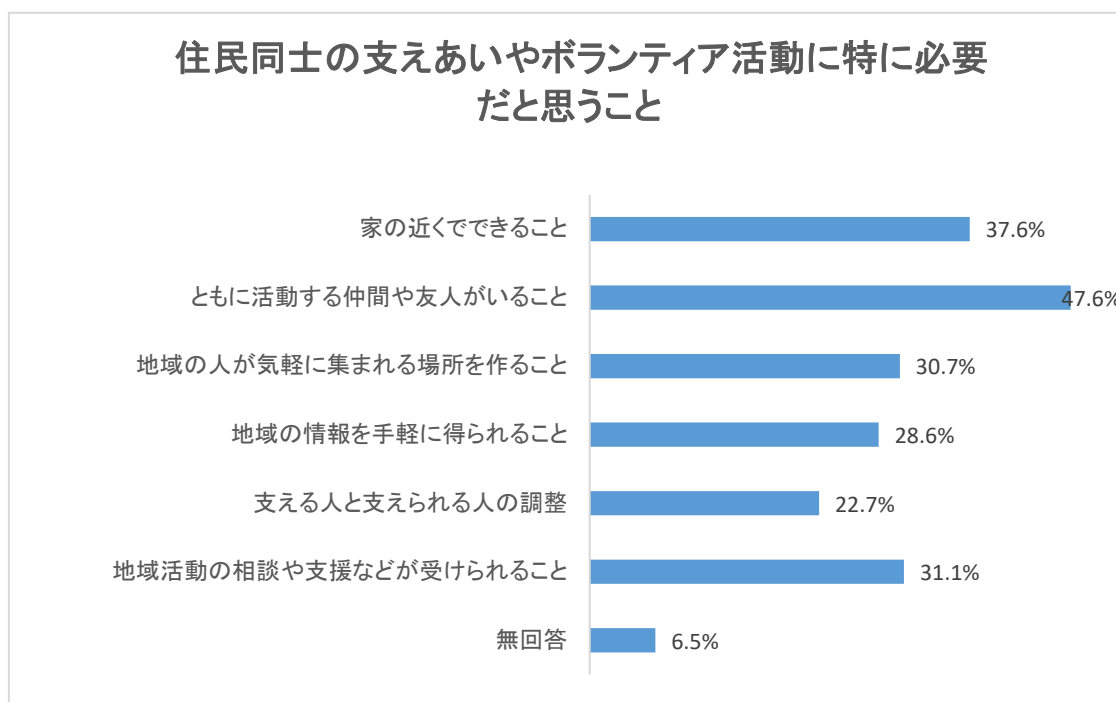
問 20 あなたは、地域における問題や課題解決に向けた住民同士の支えあい、たすけあいの関係が必要だと思いますか。



住民同士の支え合い、助け合いの関係は社会環境の変化の中で徐々に低下していると言われるが、高齢化や孤立化が進む状況の中では、今後ますます重要な取り組みとなるといえる。そのような関係への意識については、「とても必要だと思う」17.2%、「必要だと思う」51.6%と、必要だと考える人が合わせて7割近くを占めた。一方で「どちらともいえない」が18.3%と、一定数の方が回答していることも注目される。必要性は感じながらも、現代の地域社会の中での助け合いの関係は難しいと考える方も一定数いるのかもしれない。

内閣府が令和4年に行った「防災に関する世論調査」では、災害が起こった時に、「自助」、「共助」、「公助」のどれに重点をおくべきかをたずねているが、地域ブロック別にみると、東北ブロックでは、「自助に重点をおくべき」と考える人が36.8%（全国平均28.5%）と全国平均より高く、「共助に重点をおくべき」は23.2%（全国平均19.7%）と全国より高い傾向、「公助に重点をおくべき」は4.0%（全国平均9.3%）と全国で最も低かった。ここから東北地方では、「公助」に頼らず、「自助」と「共助」を重視する傾向があることが伺えるが、高齢化と過疎化が進行する中で「共助」が難しくなり、「自助」に重きを置かざるを得ない現状があるのかもしれない。このような現状の中で、どのように工夫して地域の中での助け合いの関係を作っていくかが課題となっているといえよう。

問 21 住民同士の支えあいやボランティア活動に特に必要なことは、どのようなことだと思いますか。

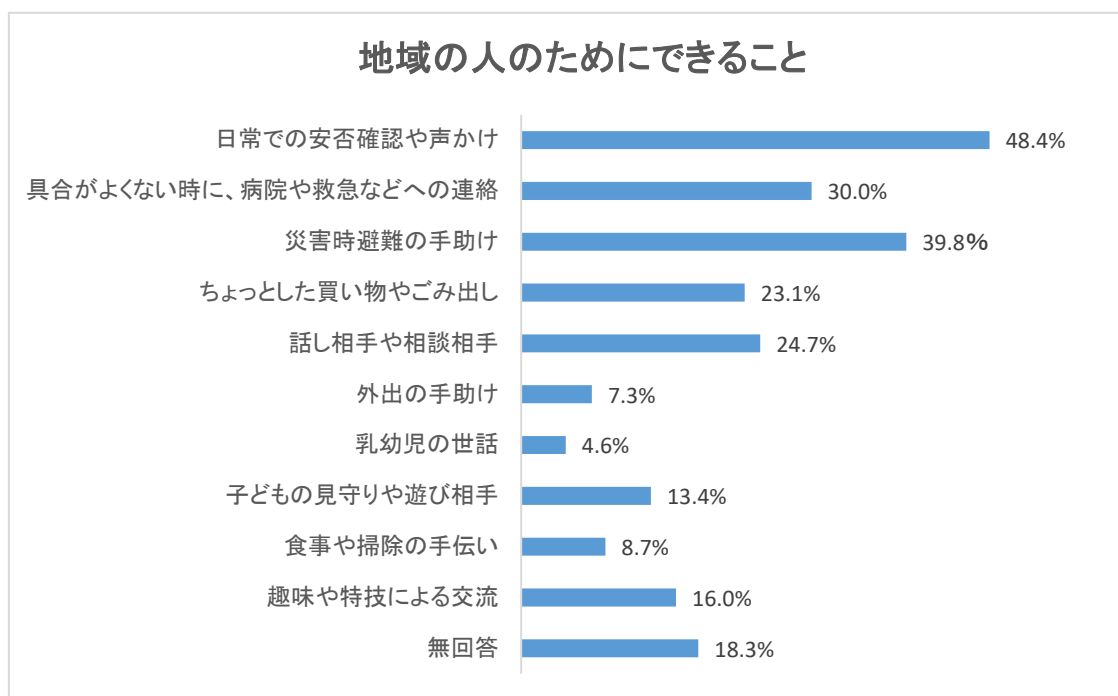


住民同士の支えあいや、ボランティア活動に特に必要だと思うことを聞いたところ、「ともに活動する仲間や友人がいること」が最も多く 47.6%、次いで「家の近くでできること」37.6%、「地域活動の相談や支援などが受けられること」31.1%となった。さらに「地域の人が気軽に集まれる場所を作ること」30.7%、「地域の情報を手軽に得られること」28.6%、「支える人と支えられる人の調整」22.7%という順番になっている。

これらの回答から、自分の身近な地域で、仲間と共に活動できること、活動についての情報提供や相談、調整などの支援が重要であることが伺える。地域活動やボランティア活動を行いやすい環境や支援体制づくりが求められているといえる。

〔地域の人のためにできること〕

問 22 あなたは、下記の内容で地域の人のためにできることがありますか。

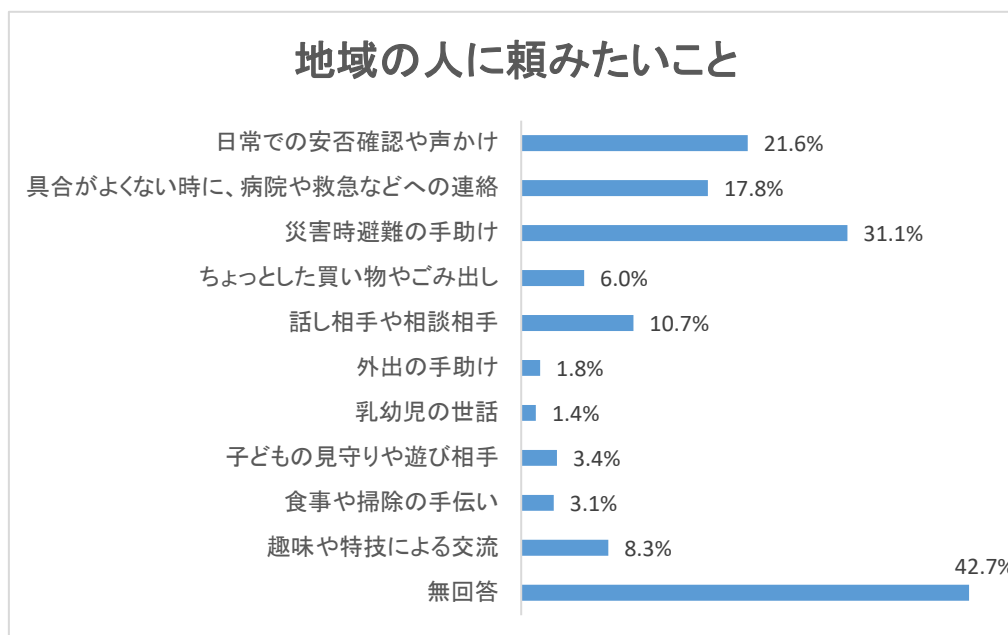


地域の人のためにできることについては、「日常での安否確認や声かけ」が48.4%と最も多く、次いで「災害時避難の手助け」39.8%、「具合が良くない時に、病院や救急などへの連絡」30.0%という順となった。その他、「話し相手や相談相手」、「ちょっとした買い物やゴミ出し」なども20%を超える回答となった。これらをみると、日常的なちょっとした手助けであれば、多くの方が地域の人のためにできることがあると考えていることがわかる。

高齢化や孤立化が進むと、日常生活のちょっとしたことが出来なくなり、生活に困難を抱える人も増える。近隣どうしてのちょっとした手助けがあれば、これらの人たちの助けとなり、地域のつながりも活性化する。今後、このようなちょっとした手助けが地域の中でできるような関係づくりや、そのような活動への支援が望まれる。

〔地域の人に頼みたいこと〕

問 23 あなたは、下記の内容で地域の人に頼みたいことがありますか。



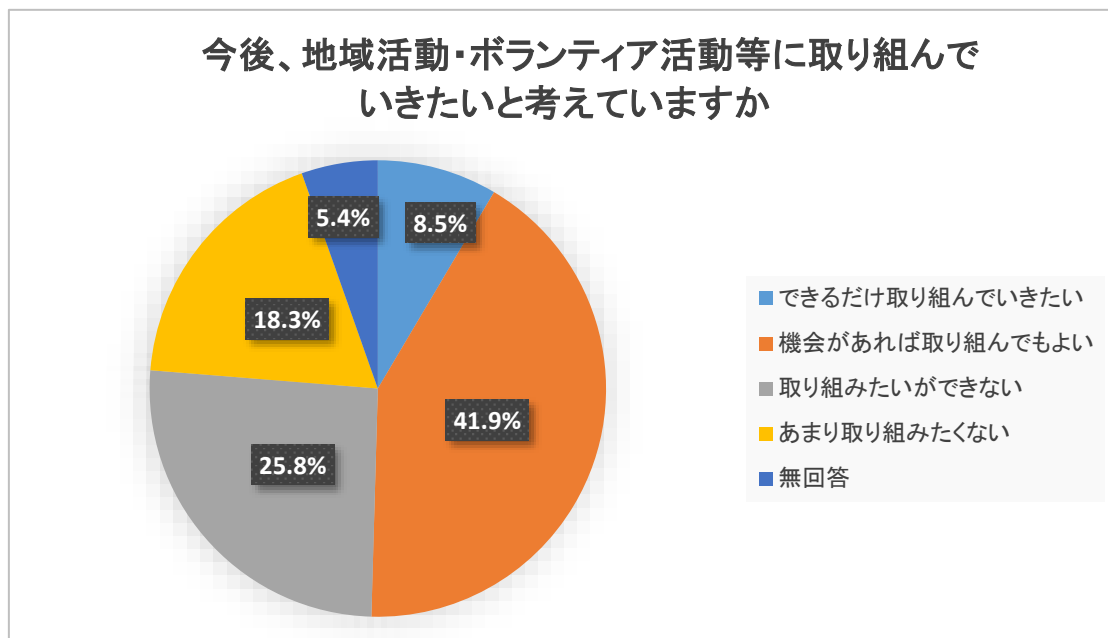
地域の人に頼みたいことについての回答では、「無回答」を除けば、「災害時避難の手助け」が最も多く、災害時において地域の人々の支援が必要と考える人が多いことがわかる。次いで、「日常での安否確認や声かけ」21.6%、「具合がよくない時に、病院や救急などへの連絡」17.8%と比較的多い回答となった。これらからは、地域の中で自分ひとりの生活では不安があり、特に災害時においては手助けが必要と考える人が一定程度いることが伺える。日常的な生活においても、ちょっとした安否確認や、いざという時の声かけ、連絡などのニーズを持っている方がいることが示唆される。「話し相手や相談相手」というニーズも10.7%と1割程度あり、地域の中での人とのつながりを求めている方がいることも伺える。

これらをふまえると、地域の中でのちょっとした手助けを通したつながりづくりが必要であり、それらを災害時や急な病気などのいざという時に活かせるような地域での関係につなげることが重要であると考察できる。

また、「子どもの見守りや遊び相手」、「乳幼児の世話」などへの回答は少ないが、これは子育てをしている世代の回答者数が相対的に少ないからだと考えられ、少ないからといってニーズが無いと捉えることはできない。子育て世代に対する地域の中での何らかの支援を考えることは重要であろう。

〔地域活動・ボランティア活動への参加の意向〕

問 24 あなたは、今後、地域活動・ボランティア活動等に取り組んでいきたいと考えていますか。

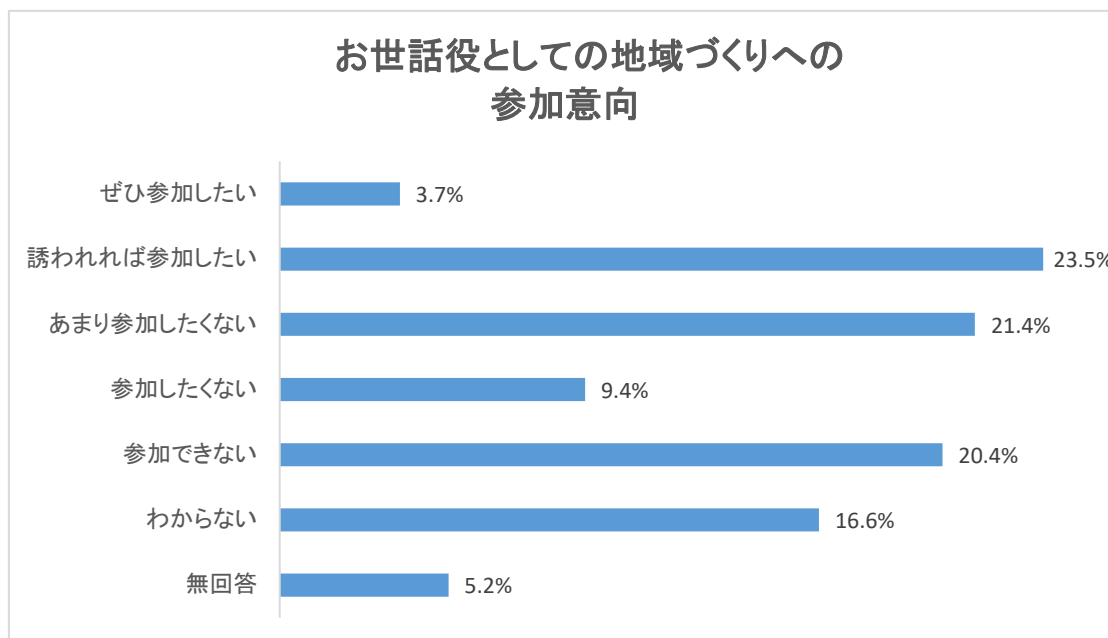


今後の地域活動・ボランティア活動等への参加意向をたずねたところ、「できるだけ取り組んでいきたい」8.5%、「機会があれば取り組んでも良い」41.9%と、取り組んでいきたいという回答が合わせて5割を超えた。鶴岡市の多くの人が地域活動・ボランティア活動等に取り組む意向があると考えられる。一方「取り組みたいができない」という回答が25.8%あった。取り組む意向はあるが、現在の生活状況等で、取り組むことが出来ないと考えている人が4人に1人程度いることがわかる。取り組む意向がある人は、都合4人中3人の割合でいることになり、市民の高い地域活動等への参加意向が伺える。

課題としては、「機会があれば取り組んでも良い」が41.9%あるように、参加意向を実際の活動につなげる機会をどのように作るかということであろう。わかりやすい地域活動やボランティア活動等に関する情報提供や、身近なところでちょっとした活動に参加できるような、新たな活動の開発などの工夫が必要だと考えられる。

〔世話役としての参加の意向〕

問 25 地域住民の有志によって、住民の居場所づくりやイベントの企画等の地域づくりを進めるとしたら、その活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。（お世話役としての地域づくりへの参加意向）

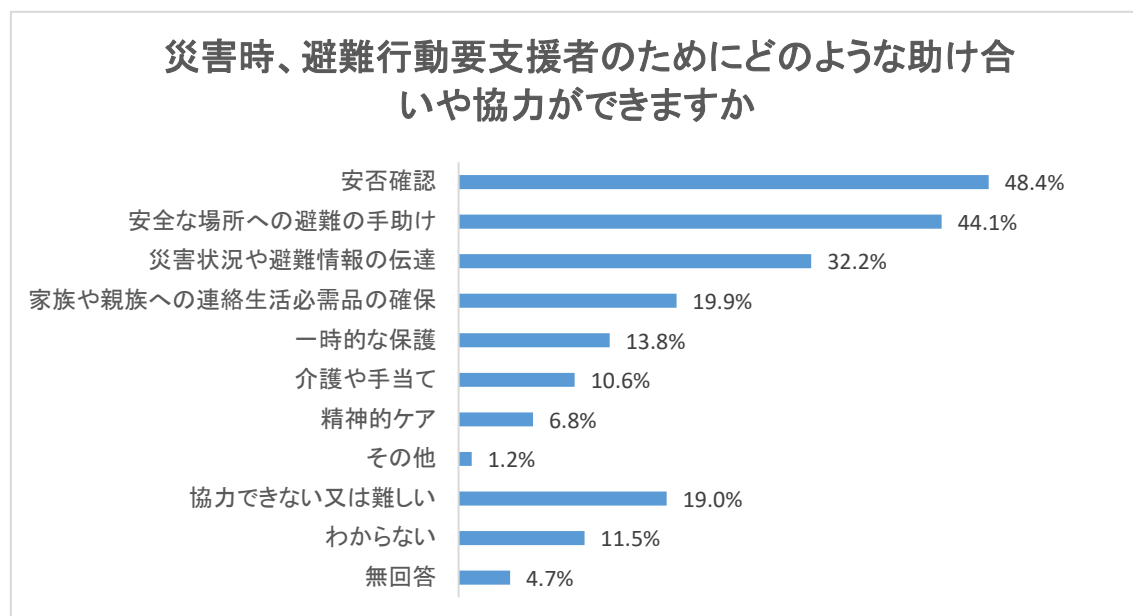


お世話役としての地域づくりへの参加意向をたずねたところ、「ぜひ参加したい」3.7%、「誘われれば参加したい」23.5%と、参加意向がある方は4人に1人の割合となった。一方「あまり参加したくない」21.4%、「参加したくない」9.4%、「参加できない」20.4%と、参加意向がないか、参加できないという人の割合が5割超となっている。

この設問は「お世話役としての」参加意向を聞いており、なんらかの責任をともなう役割を担うことに関しては、余裕や時間がないなどの理由で、積極的な参加意向につながらなかったことが推察される。地域の中で、地域活動の担い手をどのように確保するか、地域全体での役割分担や、新たな活動の担い手養成の課題が示唆されているといえる。

〔避難行動要支援者のための助け合いや協力について〕

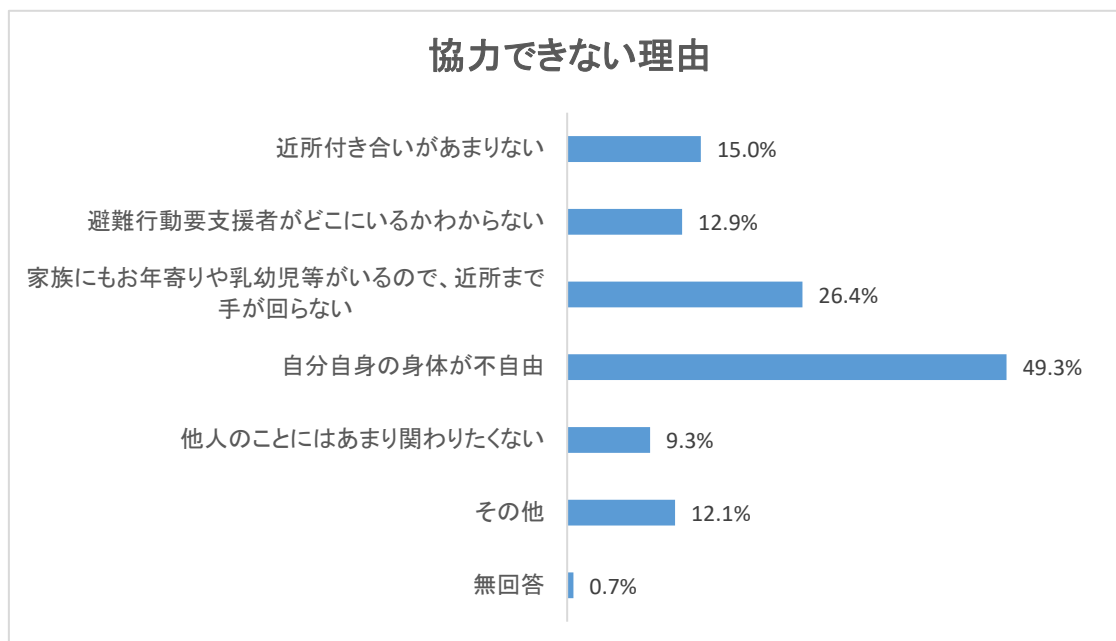
問 26 大地震などの災害が起こったときに、あなたは近隣に住む家族以外の避難行動要支援者のためにどのような助け合いや協力ができますか。



災害時に避難行動等に支援を要する人に対してどのような支援ができるかをたずねたところ、「安否確認」48.4%、「安全な場所への避難の手助け」44.1%、「災害状況や避難情報の伝達」32.2%、「家族や親族への連絡／生活必需品の確保」19.9%という順番となった。災害時においては、ちょっとした手助けであれば積極的に協力したいという方が多くいることが伺える。

これらのちょっとした手助けは、日常的な助け合いが行われていると、災害時においても助け合いがスムーズに展開されることにつながる。万が一の災害の発生を見越した日常的な助け合いや関係づくりが重要であろう。

問 26-2 協力できない理由について、次のどれに該当しますか。



問 26 で「協力できないまたは難しい」と回答した人（19.0％）に、協力できない理由についてたずねた。理由として最も多いのは「自分自身の身体が不自由」が最も多く 49.3％、次いで「家族にもお年寄りや乳幼児等がいるので近所まで手が回らない」が 26.4％と多くなっている。「その他」に回答した人の具体的な理由を見ても、「自分も要支援者だから」、「自分のことで余裕がない」などの意見が寄せられていた。高齢化等が進んでおり、手助けをしたくても自分のことで精いっぱい、あるいは自分自身が支援の対象者である人が増えていることが伺える。

また「近所付き合いがあまりない」15.0％、「避難行動要支援がどこにいるかわからない」12.9％という回答が一定程度あった。いざという時に手助けをするためには日常的な地域のつながりづくりが重要であろう。地域の中で無理のない程度に役割分担をし、お互いに支え合える関係づくりを行っていく必要があるといえよう。

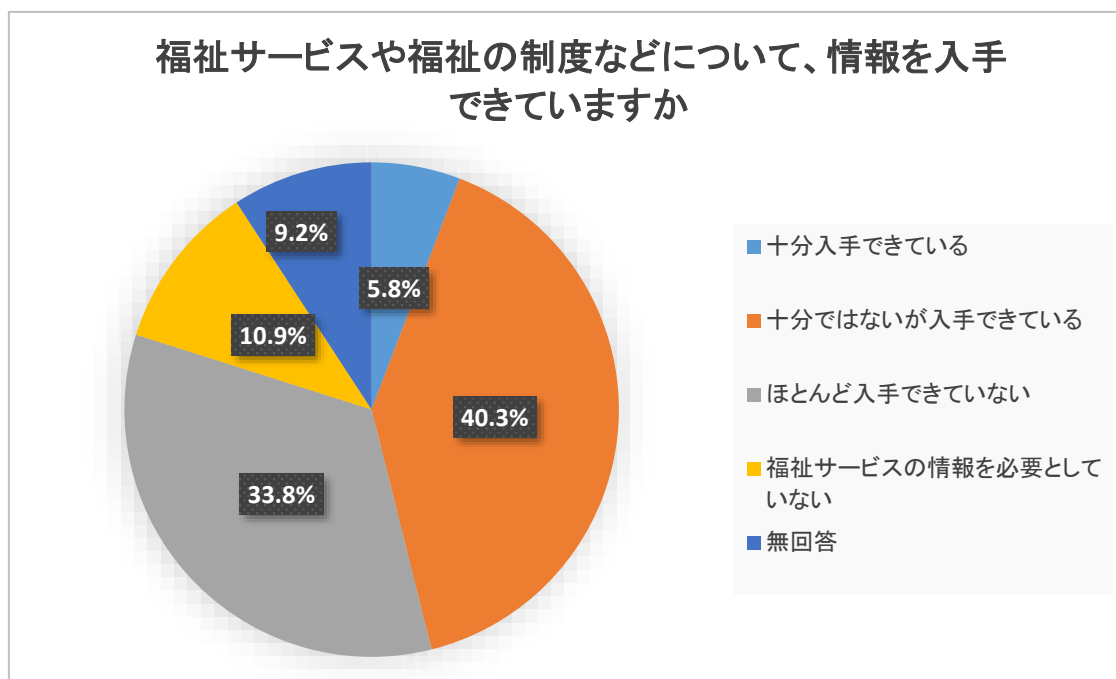
問 27 地域活動・ボランティア等で取り組みたいことなどがありましたら、ご自由にお書きください。

問 27 では、地域活動・ボランティア等で取り組みたいことを、自由記述形式で回答していただいた。「ちょっとしたゴミ拾いをコツコツやる」という回答や、「イベントごとの運営」、「ちょっとした支援や手助け」、「災害時を想定した訓

練」などの回答があった。身近な地域で、自分が出来る範囲でのちょっとした手助けやボランティア活動であれば、多くの人が参加しやすいと考えられる。

〔福祉サービスや制度についての情報の入手〕

問 28 あなたは、福祉サービスや福祉の制度などについて、情報を入手できていますか。

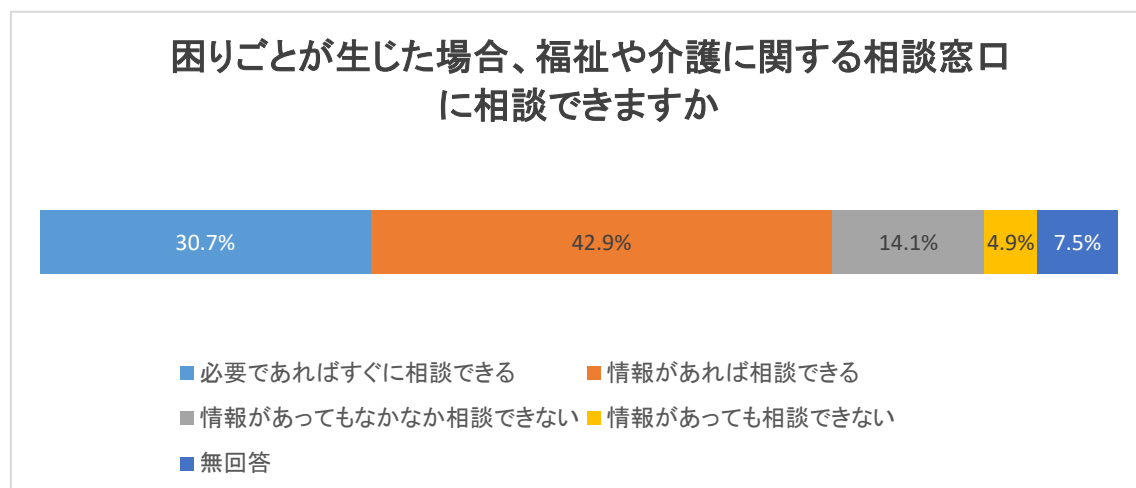


福祉サービスや制度などの情報の入手状況についてたずねたところ、「十分入手出来ている」5.8%、「十分ではないが入手出来ている」40.3%と、入手出来ているという回答は5割弱にとどまった。一方で「ほとんど入手できていない」は33.8%と、3人に1人が入手出来ていないという課題となった。入手できていても、「十分ではないが」と回答している方が40.3%いることから、福祉サービスや制度に関する情報を今後どのような方法でわかりやすく提供していくかについては大きな課題といえる。

情報提供については、世代によっても主に触れる情報メディアが異なるという難しさもある。若年層にはインターネットや SNS 等の電子メディアによる情報提供の拡充も必要であろうし、高齢年齢層においては、従来の紙メディアの情報提供に加え、見守りも兼ねた地域での直接の情報提供を行うなど、情報提供のあり方をそれぞれの課題に合わせて工夫していくことが必要となるだろう。

〔福祉や介護の相談について〕

問 29 あなたとあなたの家族に困りごとが生じた場合、あなたは、福祉や介護に関する相談窓口にご相談できますか。



困りごとが生じた場合に、必要な福祉や介護の相談窓口にご相談することができるかどうかは、その後の支援につながるかどうかという点で大変重要である。回答では、「必要であればすぐに相談できる」30.7%、「情報があれば相談できる」42.9%と、「相談できる」と回答した人は7割を超えた。

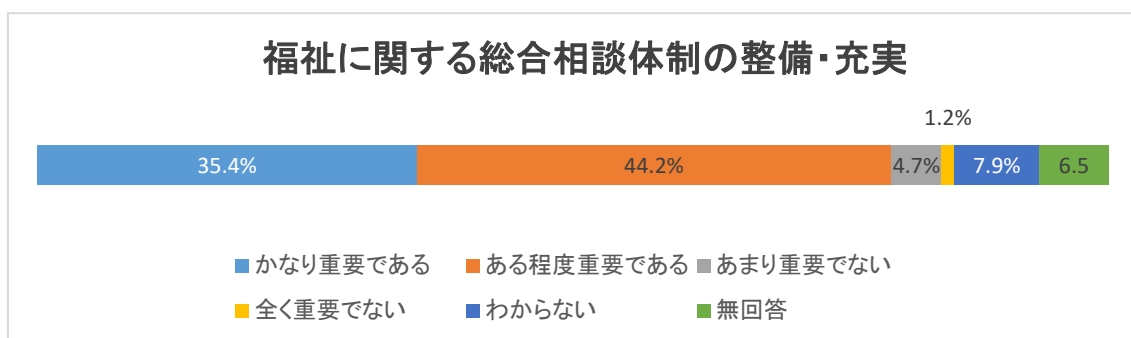
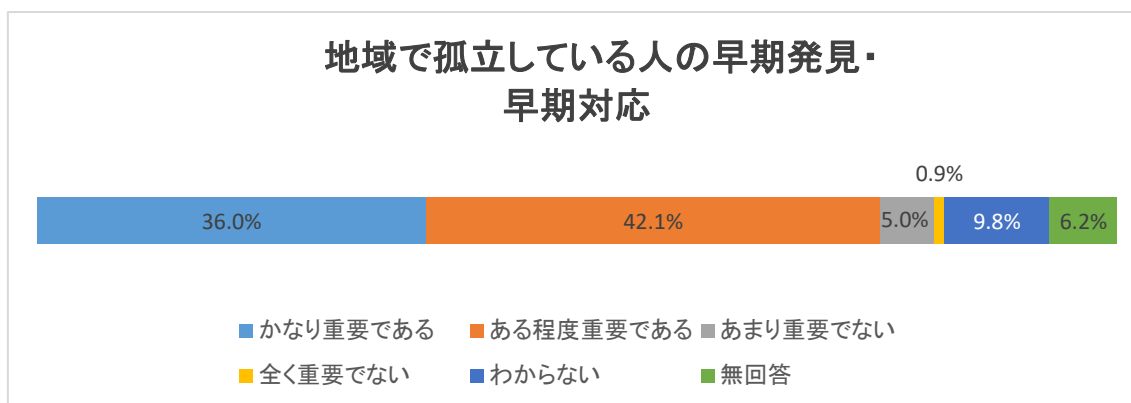
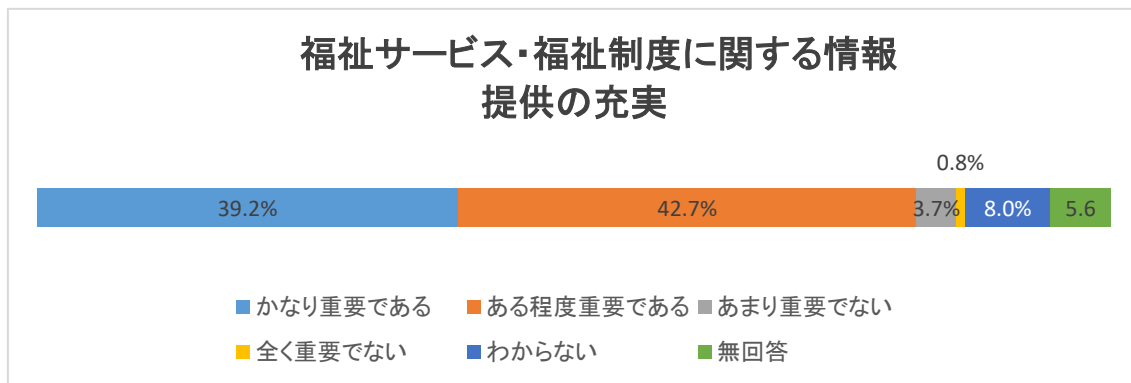
必要な福祉や介護等の情報を受け取り、支援にアクセスしやすいことを「アクセシビリティ」というが、「情報があれば」としている人が42.9%と多いことを考えれば、適切な福祉・介護等制度の情報提供を行うことが重要であることが伺える。

また、「情報があってもなかなか相談できない」14.1%、「情報があっても相談できない」4.9%と、「相談できない」という回答が2割弱あったことは示唆的である。単なる情報提供だけでは相談できない人がいることが伺える。何らかの課題がある人の窓口への申請を待つのではなく、こちらからニーズがある人にアプローチし、支援につなげることを「アウトリーチ」というが、支援が必要だと思われる方を早期に発見し、アウトリーチして支援につなげることのできる体制づくりも今後重要な課題だといえるだろう。

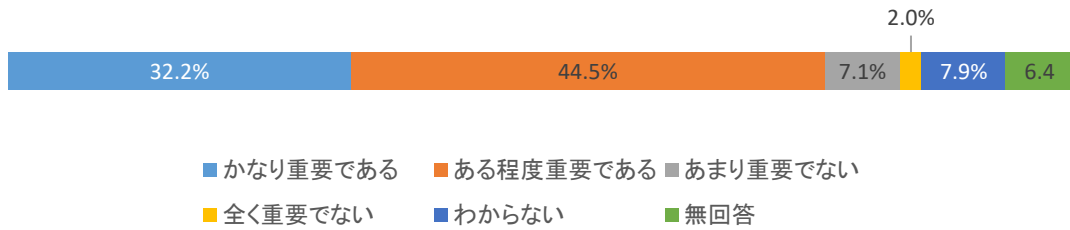
7. 地域福祉の施策について

〔福祉施策の重要度について〕

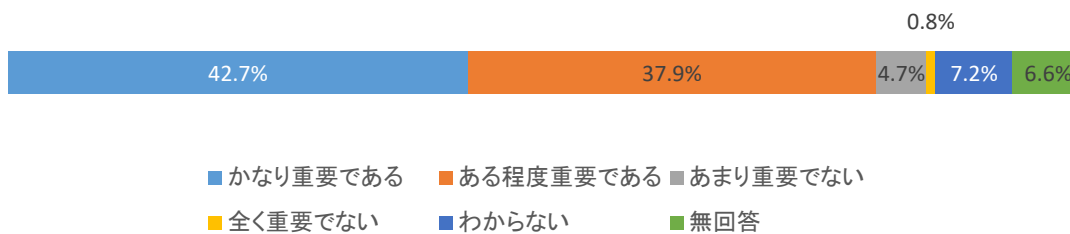
問 30 あなたにとって、下記の福祉政策について、どの程度重要だと思いますか。



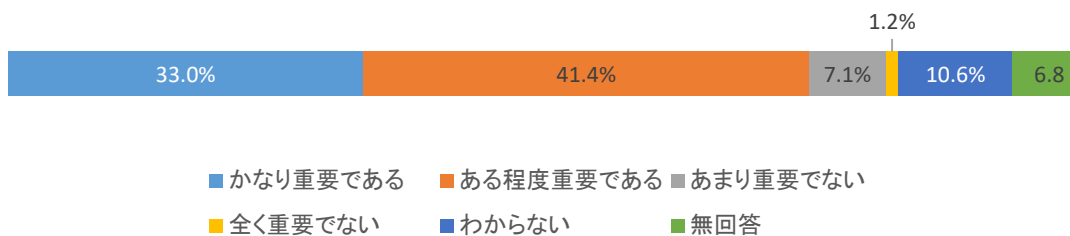
通院や買い物の手段の確保



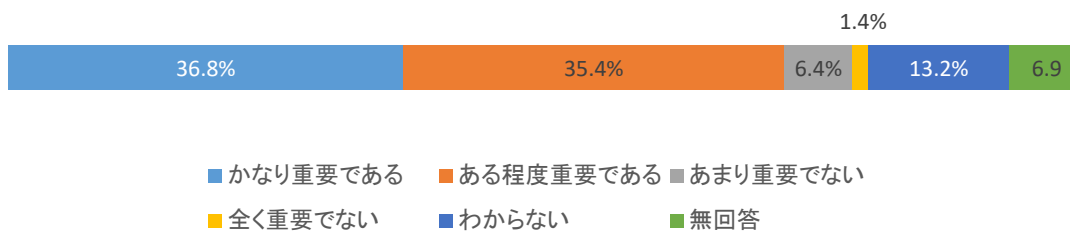
福祉や介護の人材の確保や養成



経済的に困っている人の自立支援や 就労支援



身寄りがいない人の身元保証や死後の 対応



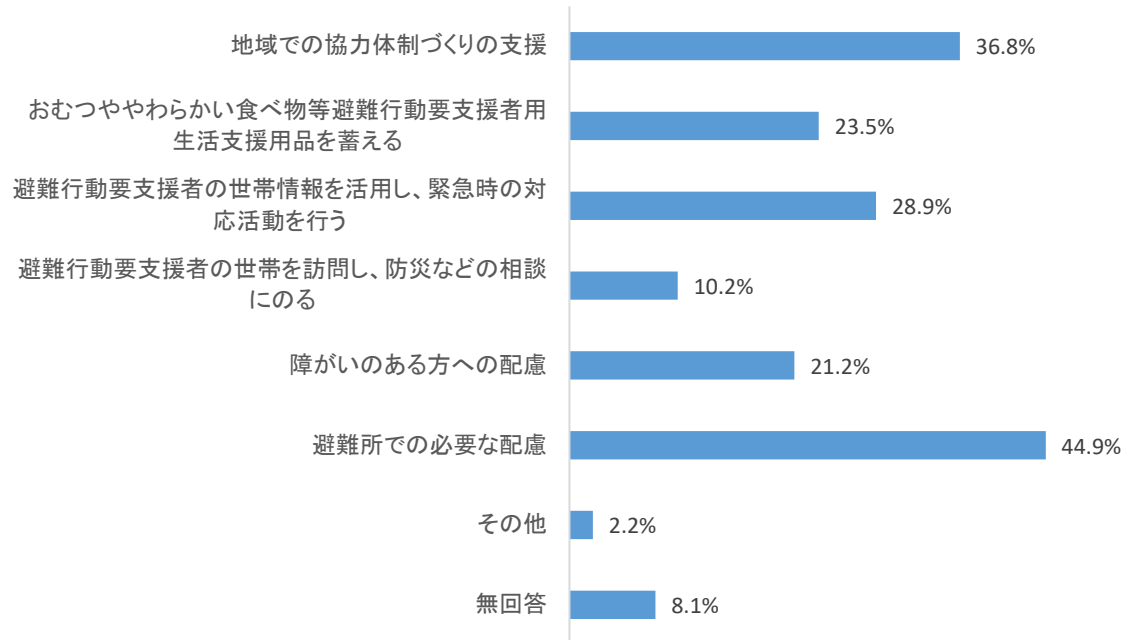
この設問では、福祉政策の重要度についてたずねているが、重要度を最も高く感じているのは「福祉や介護の人材の確保や養成」（かなり重要 42.7%、ある程度重要 37.9%）であった。少子化の影響や若年層の都会への流出などにより、福祉・介護人材の不足は喫緊の課題となっている。また「福祉サービス・福祉制度に関する情報提供の充実」（かなり重要 39.2%、ある程度重要 42.7%）も重要度が高くなっていた。福祉・介護等のサービスを必要としている人が増えており、適切な情報提供を求める声が高まっているといえる。さらに「福祉に関する総合相談体制の整備・充実」（かなり重要 35.4%、ある程度重要 44.2%）も、重要度が高い項目となった。現在、福祉の領域では地域共生社会を構築するための「包括的支援体制の整備」が各自治体で進められているが、鶴岡市においても国が新たに事業化した「重層的支援体制整備事業」などを活用して、総合相談体制の整備充実を図っていくことが重要であろう。

その他の項目、「地域で孤立している人の早期発見・早期対応」、「通院や買い物手段の確保」、「経済的に困っている人の自立支援や就労支援」についても、「重要である」と回答する人は7割以上となっている。また「身寄りがない人の身元保証や死後の対応」は、重要度としては回答が最も低くなっているが、それでも7割が重要と回答している。この課題は、高齢化の進展と共に、全国的にも徐々に課題として認識されてきたものである。鶴岡市においても、身寄りがない人への身元保証や死後の対応などの仕組みを整えていくことが必要であろう。

【災害時避難行動要支援者について】

問 31 災害時の避難行動要支援者の対策として、あなたは行政に何を期待しますか。特に重要だと思うものを2つまでお選びください。

災害時の避難行動要支援者の対策として、 行政に何を期待しますか



災害時の避難行動要支援者への対策として行政に期待することをたずねたところ、「避難所での必要な配慮」が 44.9%と最も多くなった。「障がいのある方への配慮」にも 21.2%の回答があったことをふまえると、高齢化が進むことによって様々な障がいを持つ方が増えている現状においては、普段住み慣れないところでの避難生活は大きな負担を避難者にかかることになると考えられる。障がいや疾病等の個別の状況に配慮した、多様な対応ができるよう、避難所での適切な支援が望まれるといえるだろう。

また、「地域での協力体制づくり」36.8%、「避難行動要支援者の世帯情報を活用し、緊急時の対応活動を行う」28.9%という回答も多くなった。これらは、災害時だけでなく日常的に避難行動要支援者に対するつながりづくりや、支援体制づくりが必要だと考えられていることの証しであろう。

東日本大震災をきっかけに、各自治体で避難行動要支援者名簿を作成することが義務付けられ、日ごろから防災活動に活用することとされている。この取り組みを行政と地域住民が連携して確実に行之、万一の災害に備えた地域づくりを確実に進めることが求められているといえる。

＜鶴岡市民の皆様へ＞

鶴岡市の福祉ニーズに関するアンケート調査へのご協力をお願い

市民の皆さまには、日頃より市政全般にご理解とご協力をいただきまして、厚く御礼申し上げます。

本市では、「誰一人取り残さない」という SDG s の理念を踏まえ、「安心すこやか 福祉で共生のまちづくり 鶴岡」を基本理念に、地域における支え合い活動を推進し、地域福祉の向上に取り組んでいるところです。

そこで、市民の皆さまに、日頃の暮らしの困りごとや地域の課題について、また地域の支え合い状況についてお伺いし、今後の鶴岡市の地域福祉の向上のために活用させて頂くためアンケート調査を実施いたします。

調査結果は、地域におけるコミュニティづくりや、地域福祉に関する市の施策に活用します。アンケート調査の趣旨をご理解いただき、回答にご協力くださいますよう、お願いいたします。

回答期限：令和 6 年 9 月 1 3 日（金）

※このアンケート調査は、本市にお住いの 18 歳以上の方 2,000 人を無作為に抽出して実施します。

※ご回答は、統計的に処理され、個人が特定されることはありません。

※ご記入いただいた調査票が公表されたり、調査の目的以外に使用することはありません。

令和 6 年 8 月 鶴 岡 市

- ① 別紙の回答用紙にご記入いただき、同封の返信用封筒（切手不要）にて返送をお願いします。
- ② 本アンケートにお答えいただくに当たってのおおよその所要時間は 15 分です。
- ③ 本アンケートは無記名方式です。回答用紙などに名前や住所のご記入は不要です。
- ④ ご回答が難しい設問については、空欄のまま進めてください。
- ⑤ アンケート対象の方が回答を行うのが難しい場合、ご家族の方等から回答の代行をいただければ幸いです。
- ⑥ WEB での回答も可能です。以下の URL をクリックまたは QR コードから回答フォームへアクセスください。

URL:QR コード：

<お問い合わせ先>

鶴岡市 健康福祉部 地域包括ケア推進室

〒997-8601 鶴岡市馬場町 9 - 25

電 話：0235-35-1251

FAX：0235-29-5658

メール：hokatsukea@city.tsuruoka.yamagata.jp

鶴岡市の福祉ニーズに関するアンケート調査

<A>ご本人の基本情報

問1 あなたの性別をお伺いします。(○は1つ)

1 男性	2 女性	3 その他
------	------	-------

問2 令和6年8月1日現在のあなたの年齢をお伺いします。(○は1つ)

1 10歳代・20歳代	2 30歳代	3 40歳代	4 50歳代
5 60歳代	6 70歳代	7 80歳以上	

問3 お住まいの地域はどちらですか。(○は1つ)

1 第一学区	2 第二学区	3 第三学区	4 第四学区	5 第五学区	6 第六学区
7 斎・黄金	8 湯田川・田川	9 京田・栄	10 大泉・上郷	11 三瀬・由良・小堅	
12 大山・西郷	13 加茂・湯野浜	14 藤島地域	15 羽黒地域	16 櫛引地域	
17 朝日地域	18 温海地域				

問4 あなたの現在の婚姻状況をお答えください。なお、「配偶者」には事実上夫婦として生活しているが、婚姻届を提出していない場合を含めます。(○は1つ)

1 未婚	2 配偶者あり	3 死別・離別
------	---------	---------

問5 あなたの世帯は、どのような世帯ですか(○は1つ)

1 単身世帯	2 夫婦のみ世帯(1世代世帯)	3 2世代世帯(両親と子ども)
4 ひとり親世帯(母子家庭又は父子家庭)	5 3世代世帯(親と子と孫)	6 その他()

問6 あなたの現在の仕事をお答えください。(○は1つ)

1 正規の職員・従業員	2 派遣社員・契社員・嘱託
3 パート・アルバイト(学生アルバイトを除く)	4 会社などの役員
5 自営業主	6 家族従事者・内職
7 学生・生徒	8 仕事をしていない(仕事を探している)
9 仕事をしていない(仕事を探していない)	10 その他

問7 あなたの世帯の現在の経済的な状況はいかがですか。(○は1つ)

- | | | |
|------------|-------------|------------|
| 1 かなり余裕がある | 2 ある程度余裕がある | 3 あまり余裕がない |
| 4 非常に苦しい | 5 わからない | |

問8 あなたの現在の住まいをお答えください。(○は1つ)

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1 持ち家(一戸建) | 2 持ち家(マンションなどの共同住宅) |
| 3 民営の賃貸住宅 | 4 都道府県・市営の賃貸住宅 |
| 5 給与住宅(社宅・公務員住宅など) | 6 その他 |

問9-1 あなたやあなたの家族(同居していない場合も含む)は、現在福祉・介護サービスを利用していますか。(○は1つ)

- | | | |
|----------------|-----------|---------|
| 1 利用している→問9-2へ | 2 利用していない | 3 わからない |
|----------------|-----------|---------|

【問9-1で「1 利用している」を選択した方へ】

問9-2 福祉・介護サービスを利用している場合、どのサービスを利用していますか。(○は1つ)

- | | | |
|-----------------------------------|------------|------------|
| 1 介護保険サービス | 2 児童福祉サービス | 3 障害福祉サービス |
| 4 ひとり親(母子家庭や父子家庭)や寡婦の方々を対象としたサービス | 5 わからない | |

問10 あなたは、ふだん自分で身体的に健康だと思いますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------|--------------|
| 1 非常に健康だと思う | 2 おおむね健康だと思う |
| 3 あまり健康ではない | 4 健康ではない |

問11 あなたは、ふだん自分で精神的に健康だと思いますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------|--------------|
| 1 非常に健康だと思う | 2 おおむね健康だと思う |
| 3 あまり健康ではない | 4 健康ではない |

あなたの孤独感・孤立感の程度についてお答えください。

問12-1 あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。(○は1つ)

- | | | | | |
|---------|----------|---------|--------|---------------|
| 1 決してない | 2 ほとんどない | 3 たまにある | 4 時々ある | 5 しばしばある・常にある |
|---------|----------|---------|--------|---------------|

問12-2 あなたは、自分には人とのつきあいが無いと感じることがありますか。(○は1つ)

- | | | | |
|---------|----------|--------|--------|
| 1 決してない | 2 ほとんどない | 3 時々ある | 4 常にある |
|---------|----------|--------|--------|

問12-3 あなたは、自分は取り残されていると感じることがありますか。(○は1つ)

1 決してない	2 ほとんどない	3 時々ある	4 常にある
---------	----------	--------	--------

問12-4 あなたは、自分は他の人たちから孤立していると感じることがありますか。(○は1つ)

1 決してない	2 ほとんどない	3 時々ある	4 常にある
---------	----------	--------	--------

問13 あなたは次の①～⑧の会やグループに参加していますか。
(各項目につき○は1つ)

	1年以上前から参加している	この1年以内に新たに参加するようになった	参加していないが、機会があれば参加したい	参加する予定はない
① 自治会や町内会	1	2	3	4
② ボランティアやNPO	1	2	3	4
③ 宗教団体(檀家や氏子を含む)	1	2	3	4
④ PTA や保護者会	1	2	3	4
⑤ 趣味の会やスポーツクラブ	1	2	3	4
⑥ 職場内の会やグループ	1	2	3	4
⑦ 同じ学校出身者の会やグループ	1	2	3	4
⑧ 地域のサロンや居場所	1	2	3	4

 暮らしの困りごとや地域の課題について

問14 あなたやあなたの家庭が、最近暮らしの上で困っていることについてお答えください。

(各項目につき○は1つ)

	大変困っている	ある程度困っている	あまり困っていない	困っていない
① 物価の高騰や経済的なこと	1	2	3	4
② 子育てに関すること(家庭環境、成長、お金、家庭外保育など)	1	2	3	4
③ 介護に関すること(家庭環境、負担、お金など)	1	2	3	4
④ 心身の健康に関すること(心や体の不調など)	1	2	3	4
⑤ 家族関係に関すること(DV、ひきこもりなど)	1	2	3	4
⑥ 通院に関すること(移動、医療機関選びなど)	1	2	3	4
⑦ 買い物に関すること(場所、移動、搬送など)	1	2	3	4
⑧ 住まいに関すること(家賃、空き家、修繕など)	1	2	3	4

上記について具体的な内容、その他、あなたやあなたの家庭で困っていることがありましたら、ご自由にお書き下さい。

問15 あなたやあなたの家族が次にあげる①～⑨のことからで困った時、頼れる人はいますか。

また、「1 いる」と答えた方にお聞きします。それはだれですか(あてはまる番号すべてに○をつけてください)。

事柄	頼れる人はいますか 「1 いる」と答えた方は 右枠の質問へ	それは誰ですか				
		家族・親族	友人・知人	近所の人	相談機関※	行政などの
① 体調が悪いとき	1 いる 2 いない 3 そのことでは人に頼らない	1	2	3	4	
② 家庭や仕事のことで精神的に苦しいとき	1 いる 2 いない 3 そのことでは人に頼らない	1	2	3	4	
③ 日頃のちょっとしたことの手助け	1 いる 2 いない 3 そのことでは人に頼らない	1	2	3	4	
④ 重要な事柄の相談	1 いる 2 いない 3 そのことでは人に頼らない	1	2	3	4	
⑤ いざという時の金銭的な援助	1 いる 2 いない 3 そのことでは人に頼らない	1	2	3	4	
⑥ 通院や買い物の世話	1 いる 2 いない 3 そのことでは人に頼らない	1	2	3	4	
⑦ 家を借りる時の保証人を頼むこと	1 いる 2 いない 3 そのことでは人に頼らない	1	2	3	4	
⑧ 病院や福祉施設等に入所・入院する際に身元保証人を頼むこと	1 いる 2 いない 3 そのことでは人に頼らない	1	2	3	4	
⑨ 成年後見人・保佐人を頼むこと(※※)	1 いる 2 いない 3 そのことでは人に頼らない	1	2	3	4	

※市役所、民生委員、社会福祉協議会、地域包括支援センター、子育て支援センター、医療機関、福祉サービス事業者、ボランティアやNPO など

※※意思判断能力に欠ける場合、家庭裁判所に申し出て、第三者により契約行為や財産管理などを行う制度。

問16 あなたがお住まいの地域の課題について、あてはまることについてお答え下さい。

(各項目につき○は1つ)

	かなりあてはまる	ある程度あてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	わからない
⑧ 町内会や自治会の役員が高齢化し、担い手が不足している	1	2	3	4	5
⑨ 少子化や人口が減っていくことが心配である	1	2	3	4	5
⑩ 近所づきあいが希薄である	1	2	3	4	5
⑪ 地域で孤立している人が増えている	1	2	3	4	5
⑫ 買い物や通院が不便である	1	2	3	4	5
⑬ 災害があった場合に心配である	1	2	3	4	5
⑭ 積雪時の除雪ができるか心配である	1	2	3	4	5

その他、あなたがお住まいの地域の課題について、ご自由にお書き下さい。

<C> 地域の支え合いについて

問17 あなたは普段どの程度、ご近所づきあいをしていますか。(○は1つ)

- | | |
|---------------------------------|----------------------------------|
| 1 困ったときに、助け合える人がいる | 2 助け合うまではいかないが、親しく話をして
いる人がいる |
| 3 地域のお祭りや季節の行事などの活動の時だ
けつきあう | 4 つきあいはしているが、それほど親しくない |
| 5 会えばあいさつする程度 | 6 つきあいはほとんどない |

問18 あなたは、現在地域活動・ボランティア活動に参加していますか。(○は1つ)

- | | | |
|----------|-----------|--------------------------|
| 1 参加している | 2 参加していない | 3 過去には参加していたが、現在は参加していない |
|----------|-----------|--------------------------|

問19 あなたは、地域活動・ボランティア活動についての情報について入手できていますか。
(○は1つ)

- | | |
|----------------|---------------------|
| 1 十分に入手できている | 2 十分ではないが入手できている |
| 3 ほとんど入手できていない | 4 地域活動等の情報を必要としていない |

問20 あなたは、地域における問題や課題解決に向けた住民同士のささえあい、たすけあいの関係が必要だと思いませんか。(○は1つ)

- | | | |
|-------------|-------------|-------------|
| 1 とても必要だと思う | 2 必要だと思う | 3 どちらとも言えない |
| 4 あまり必要でない | 5 ほとんど必要でない | 6 わからない |

問21 住民同士の支え合いやボランティア活動に特に必要なことは、どのようなことだと思いますか。(○は3つまで)

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1 家の近くでできること | 2 とともに活動する仲間や友人がいること |
| 3 地域の人が気軽に集まれる場所を作 | 4 地域の情報を手軽に得られること |
| 5 支える人と支えられる人の調整 | 6 地域活動の相談や支援などが受けられ |

問22 あなたは、下記の内容で地域の人のためにできることがありますか(○はいくつでも)

- | | |
|----------------|----------------------|
| 1 日常での安否確認や声かけ | 2 具合がよくない時に、病院や救急などへ |
| 3 災害時避難の手助け | 4 ちょっとした買い物やごみ出し |
| 5 話し相手や相談相手 | 6 外出の手助け |

- | | |
|-------------|----------------|
| 7 乳幼児の世話 | 8 子どもの見守りや遊び相手 |
| 9 食事や掃除の手伝い | 10 趣味や特技による交流 |

問23 あなたは、下記の内容で地域の人に頼みたいことがありますか(○はいくつでも)

- | | |
|----------------|-----------------------|
| 1 日常での安否確認や声かけ | 2 具合がよくない時に、病院や救急などへの |
| 3 災害時避難の手助け | 4 ちょっとした買い物やごみ出し |
| 5 話し相手や相談相手 | 6 外出の手助け |
| 7 乳幼児の世話 | 8 子どもの見守りや・遊び相手 |
| 9 食事や掃除の手伝い | 10 趣味や特技による交流 |

問24 あなたは、今後、地域活動・ボランティア活動等に取り組んでいきたいと考えていますか。(○は1つ)

- | | |
|------------------|------------------|
| 1 できるだけ取り組んでいきたい | 2 機会があれば取り組んでもよい |
| 3 取り組みたいができない | 4 あまり取り組みたくない |

問25 地域住民の有志によって、住民の居場所作りやイベントの企画等の地域づくりを進めるとしたら、その活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいと思いますか。(お世話役としての地域づくりへの参加意向)(○は1つ)

- | | | |
|-----------|-------------|--------------|
| 1 ぜひ参加したい | 2 誘われれば参加した | 3 あまり参加したくない |
| 4 参加したくない | 5 参加できない | 6 わからない |

問26 大地震などの災害が起こったときに、あなたは近隣に住む家族以外の避難行動要支援者のためにどのような助け合いや協力ができますか。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------------|---------------------|
| 1 安否確認 | 2 安全な場所への避難の手助け |
| 3 災害状況や避難情報の伝達 | 4 家族や親族への連絡生活必需品の確保 |
| 5 一時的な保護 | 6 介護や手当て |
| 7 精神的ケア | 8 その他 |
| 9 協力できない又は難しい→【問26-2】へ | 10 わからない |

【問26で「9 協力できない又は難しい」を選択した方へ】

問26-2 協力できない理由について、次のどれに該当しますか。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------------------------|------------------------|
| 1 近所付き合いがあまりない | 2 避難行動要支援者がどこにいるかわからない |
| 3 家族にもお年寄りや乳幼児等がいるので、近所
まで手が回らない | 4 自分自身の身体が不自由 |
| 5 他人のことにはあまり関わりたくない | 6 その他() |

問27 地域活動・ボランティア等で取り組みたいことなどがありましたら、ご自由にお書きください。

<D> 地域福祉の施策について

問28 あなたは、福祉サービスや福祉の制度などについて、情報を入手できていますか。

- | | |
|----------------|----------------------|
| 1 十分入手できている | 2 十分ではないが入手できている |
| 3 ほとんど入手できていない | 4 福祉サービスの情報を必要としていない |

問29 あなたとあなたの家庭に困りごとが生じた場合、あなたは、福祉や介護に関する相談窓口にご相談できますか。(○は1つ)

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 1 必要であればすぐに相談できる | 2 情報があれば相談できる |
| 3 情報があってもなかなか相談できない | 4 情報があっても相談できない |

問30 あなたにとって、下記の福祉施策について、どの程度重要だと思いますか。(各項目につき○は1つ)

	かなり重要 である	ある程度重 要である	あまり重要 でない	全く重要で ない	わからない
福祉サービス・福祉制度に 関する情報提供の充実	1	2	3	4	5
地域で孤立している人の早 期発見・早期対応	1	2	3	4	5
福祉に関する総合相談体制 の整備・充実	1	2	3	4	5
通院や買い物手段の確保	1	2	3	4	5
福祉や介護の人材の確保や 養成	1	2	3	4	5
経済的に困っている人の自 立支援や就労支援	1	2	3	4	5
身寄りがいない人の身元保証 や死後の対応	1	2	3	4	5

問31 災害時の避難行動要支援者の対策として、あなたは行政に何を期待しますか。特に必要だと思うものを2つまでお選びください。(○は2つまで)

- | | |
|---------------------------------|------------------------------------|
| 1 地域での協力体制づくりの支援 | 2 おむつややわらかい食べ物等避難行動要支援者用生活支援用品を蓄える |
| 3 避難行動要支援者の世帯情報を活用し、緊急時の対応活動を行う | 4 避難行動要支援者の世帯を訪問し、防災などの相談にのる |
| 5 障がいのある方への配慮 | 6 避難所での必要な配慮 |
| 7 その他() | |

調査にご協力いただきありがとうございました。記入漏れがないかどうかお確かめの上、

令和6年9月13日(金)までに同封の返信用封筒に入れ、投函願います。